# 1855年安政江戸地震火災の出火点詳細調査

株式会社 防災情報サービス\* 中 村 操 公益財団法人 地震予知総合研究振興会<sup>†</sup> 松浦 律子 東京大学地震研究所<sup>‡</sup> 大邑 潤三

Detailed survey of the fire starting points after the1855 Ansei Edo earthquake

## Misao NAKAMURA

Information Service for Disaster Prevention, Miroku-cho 230-7, Sakura, Chiba, 285-0038 Japan

#### Ritsuko S. MATSU'URA

Association for the Development of Earthquake Prediction Chiyoda Build. 1-5-18 Kanda-Sarugaku-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

#### Junzo OMURA

Earthquake Research Institute, Univ. of Tokyo 1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0032, Japan

Fires in the city of Edo by the Ansei Edo Earthquake in 1855 have been assumed to be originated from about three-dozen locations. In this paper, we were able to identify 65 fire origins as a result of detailed comparisons of information from three reliable historical documents, in addition to the information we had obtained from many other historical materials. Combined with five or more isolated burned areas whose origins of fires are not revealed in this study, there must be more than 70 fire origins after Ansei Edo earthquake. It has been believed that the earthquake caused little fire damage, because it did not occur during the cooking time, and the winds were light that night. However, we must not forget that this earthquake occurred at night of the winter season. Even it was November, the climate condition was colder than today. The earthquake occurred in the political capital in tense over the opening of the country. In such capital, a rather large number of feudal lords and citizens were active late into the night. They have overlooked that not only candles and oil lamps, but many braziers used for warmth caused many fires, after wooden houses collapsed on them. It should not be forgotten that behind the fact that the area burned down in this earthquake was only 1.5 km<sup>2</sup>, there were many efforts in initial fire extinguishing that were not defeated by collapsed houses at night.

Keywords: Ansei Edo Earthquake, Fire in Edo city, Seismic Intensity, Fire origins

#### §1. はじめに

安政江戸地震は安政二年十月二日(1855年11月 11日)夜四時(不定時法変換で21:21に相当)過ぎ に発生した. 震源は東京湾北部,地震の規模はM7 程度であった. 江戸および東京を襲った直下の地震 としては,最大の被害を与えた. 地震の後火災が発 生し,7,000人を越す死者を出した. 火災による焼失 面積は1.5km<sup>2</sup>[中村・他(2005)]. 地震当日の気象 は,午前は小雨,午後には止んで夜はわずかに風が 吹いていた. 夜遅いということから, 釜戸の火を使う時 間帯ではなかったが, 暖房の火鉢や行燈などの照明 は使われていた.

火災の出火点数については、同時代史料として、 『小見川藩仙台陣屋日記』の地震4日後の条に「去 ルニ日江戸表大地震ニ而大火ニ相成り九分通焼失、 火口は三拾四ヶ所ニも相成焼候趣 白川行之者罷 帰り噂之由」とある。一方斎藤月岑は自身の著『安政 乙卯 武江地動之記』で「町方火元口(ママ)箇所なり、

<sup>\* 〒285-0038</sup> 佐倉市弥勒町 230-7 電子メール:misao@ba2.so-net.ne.jp

<sup>&</sup>lt;sup>†</sup> 〒101-0064 千代田区神田猿楽町1-5-18 千代田ビル 8F 電子メール:matsuura@adep.or.jp

<sup>\* 〒113-0064</sup> 文京区弥生 1-1-1 電子メール ohmura@eri.u-tokyo.ac.jp:

## 武家を合すれは五十ヶ所六十ヶ所にも餘あるへし」 と述べている.

後代では、例えば大正期の建築家・大熊(1924)は 大正関東震災の4ヶ月後に行われた講演会で『安政 の地震火事と大正震火災』と題し安政に関して、「発 火の場所は何箇所あったかと云いますと、(中略)其の 實際は三十六箇所位であると想像されるのでありま す」と述べている.また日本被害地震総覧[宇佐美・ 他(2013)]では、「地震後 30 余ヵ所から出火し焼失 面積は2町(0.22km)×2里19町(10km)に及んだ. 幸いに、風が静かで大事に至らず、翌日の巳刻には 鎮火した」とある. 巳の刻は午前9時25分にあたる. 夜通しほぼ12時間燃え続けたことになる. 地震の後,江戸市中での火口は三十数箇所,と噂 されたようである.その数値が現代まで訂正されず残 った.中村・他(2005)は焼失面積を精査して 1.5 km<sup>2</sup> と求めたが,今回は江戸市中の各焼失域の出火点を 求めた.また,大名小路(現在の大手町から日比谷 公園)については,出火,延焼,焼失の流れを調べた. 大名家および町方の消火活動や,火除地としての広 小路は役にたったのかといった点にも目を向けたい.

## §2. 用いた史料

主に付表 1 の 30 史料を用いたが、火災情報の信頼できる主な三史料の概略をまず紹介する.

|      |      |             |          | Table 1. 65 orig | ins in 4 | 49 are      | as o | f fire   |                   |
|------|------|-------------|----------|------------------|----------|-------------|------|----------|-------------------|
| No.  | Int. |             | 現代の地名    | 出火点(江戸期の地名)      | No.      | Int.        |      | 現代の地名    | 出火点(江戸期の地名)       |
| C-1  | 6.0  |             | 大手町      | 酒井雅楽頭上屋敷         | T-11     | 5.5         | 台    | 上野3丁目    | 上野町一丁目3           |
| C-2  | 6.5  |             | 皇居外苑     | 松平肥後守上屋敷         | T-12     | 6.0         | 東    | 池之端1丁目   | 下谷茅町 <b>2</b>     |
| C-3  | 6.5  | 千           | 丸の内2丁目   | 松平相模守添屋敷         | T-13     | 6.0         | 区    | 池之端2丁目   | 池之端七軒町            |
| C-4  | 6.5  | 代田          | 日比谷公園    | 松平肥前守上屋敷         | A-1      | 5.5         | 荒    | 川区南千住7丁目 | 小塚原町              |
| C-5  | 6.5  | L<br>区      | 日比谷公園    | 南部美濃守上屋敷         | S-1      | 5.5         |      | 向島1丁目    | 南本所元瓦町            |
| C-6  | 6.5  |             | 内幸町2丁目   | 伊東修理太夫上屋敷        | S-2      | 6.0         |      | 吾妻橋1丁目   | 中之郷竹町             |
| C-7  | 6.5  |             | 神田神保町•他  | 堀田備中守上屋敷         | S-3      | 6.0         |      | 東駒形2丁目   | 北本所荒井町            |
| Cu-1 | 6.5  |             | 日本橋浜町    | 水野出羽守中屋敷         | S-4      | 6.0         |      | 東駒形1丁目   | 北本所番場町            |
| Cu-2 | 5.5  | 中           | 新川1丁目    | 霊岸島浜町            | S-5      | 6.0         | 墨    | 石原2丁目    | 南本所石原町            |
| Cu-3 | 6.0  | 央区          | 明石町      | 松平淡路守上屋敷         | S-6      | 6.0         | 田区   | 太平1丁目    | 中之郷出村町            |
| Cu-4 | 5.5  |             | 京橋2丁目    | 南鍛冶町2            | S-7      | 6.0         |      | 緑1丁目     | 本所緑町一             |
| M-1  | 6.5  | 港           | 新橋2丁目    | 兼房町              | S-8      | 6.0         |      | 緑3丁目     | 本所緑町三·五丁目·花町3     |
| M-2  | 6.0  | 区           | 東新橋2丁目   | 柴井町              | S-9      | 6.0         |      | 緑4丁目     | 本所入江町             |
| B-1  | 6.0  | Ż           | T京区後楽2丁目 | 小石川隆慶橋 野中家       | S-10     | 6.0         |      | 立川4丁目    | 本所徳右衛門町           |
| T-1  | 6.0  |             | 千束4丁目    | 新吉原江戸町京町2        | K-1      | 6.0         |      | 新大橋2丁目   | 御船蔵前2             |
| T-2  | 6.0  |             | 花川戸1丁目   | 浅草寺地中            | K-2      | 6.0         |      | 新大橋3丁目   | 深川六間堀町2           |
| T-3  | 6.0  |             | 今戸2丁目    | 橋場金座下吹所2         | K-3      | 6.0         |      | 森下1丁目    | 森下町 <b>2</b>      |
| T-4  | 6.0  |             | 今戸1丁目    | 今戸町              | K-4      | 6.0         |      | 常盤2丁目    | 深川常磐町             |
| T-5  | 5.5  | 台東          | 下谷2丁目    | 下谷坂本町三丁目         | K-5      | 6.0         | 江    | 清澄2丁目    | 深川伊勢崎町            |
| T-6  | 6.0  | ■<br>東<br>区 | 松ヶ谷      | 龍光寺門前            | K-6      | 6.0         | 東    | 冬木       | 深川亀久町             |
| T-7  | 5.5  |             | 元浅草4丁目   | 行安寺門前            | K-7      | 6.0         | 区    | 富岡2丁目    | 永代寺門前東仲町          |
| T-8  | 5.5  |             | 寿2丁目     | 浅草八軒町 玉宗寺        | K-8      | 6.5         |      | 門前仲町•他   | 永代寺門前町·他 <b>3</b> |
| T-9  | 5.5  |             | 駒形1丁目    | 駒形町              | K-9      | 6.0         |      | 永代1~2丁目  | 深川熊井町·他 <b>4</b>  |
| T-10 | 6.0  |             | 蔵前2丁目    | 三好町              | K-10     | 0 6.0 亀戸2丁目 |      | 亀戸2丁目    | 亀戸町               |
|      |      |             |          |                  | K-11     | 6.0         |      | 亀戸6丁目    | 中之郷五之橋町           |
|      |      |             |          |                  |          |             |      |          |                   |

| 表     | 1.65ケ     | 所の出り      | と点の場    | 所       |
|-------|-----------|-----------|---------|---------|
| Table | 1. 65 ori | gins in 4 | 9 areas | of fire |

複数の火元は末尾にアラビア数字で示した. Int.欄は中村・松浦(2011)の震度. Multiple fire sources are indicated by Arabic numerals at the end." Int." column indicates seismic intensity from Nakamura and Matsu'ura (2011).

『安政地震焼失図』[以下付表1に従い(d)と略記] 地震後,江戸市中の焼失区域を23枚の絵図にまと めたもの.作業は北町奉行井戸対馬守の元で行わ れた. 絵図役 6 名, 町年寄喜多村彦右衛門, 同樽藤 左衛門, 同館市右衛門の手代など総勢 16 人が地割 役などを分担して調査した焼失域を図示し, 出火見 分絵図を作成した.41 箇所の出火点を示してあるが, これが出火点の全てではない.火災史料としては最 も詳しい.現存する写しは東京大学地震研究所 (1985)の底本である神宮文庫蔵本,江戸東京博物 館蔵本,さらに国立国会図書館の古典籍史料にある, 明治期の近世史料書写集『地災撮要』巻八,の3つ ある(付録1).本稿ではこの3種を比較して焼失状況 などの検討に用いた.但し図2,4,5,6では方位等を元 史料の図の状態で図化してあり,距離や方位は現代 の地図のように正確ではない.火災の検討に関わる3 種の写本の差異は表2にまとめた.

#### 『安政乙卯 武江地動之記』[以下で(c)]

著者斎藤月岑は,江戸時代後期から明治時代初 期にかけての江戸・東京の町人.通称は市左衛門, 諱は幸成,月岑は著述等の際に用いた号である.居 住町である雉子町のほか,三河町三丁目・同裏町・ 四丁目・同裏町・四軒町の町名主をつとめた.江戸の 地誌や風俗に関する『江戸名所図会』,『東都歳事 記』,『武江年表』など数々の書物を著した文化人とし ての活動がよく知られている(東京大学史料編纂所, 1996).この安政江戸地震の被害についても,自身の 見聞と聞き取り情報を正確且つ詳細に記述している.

現存する写本には国会図書館蔵本,タイトルが『東都地震記』と異なるものの,内容がほぼ同じ東京都立 図書館蔵本[以下都立図書館蔵本, e.g. 松浦・中村 (2023)]がある.活字翻刻版としては,底本が不明な 大正期のもの[江戸叢書刊行会(1917)]と都立図書 館蔵本が底本[森嘉兵衛(1970)]の関谷・後藤(1970) によるものがある.本論では,底本と校訂が明瞭で翻 刻の信頼度が高く,底本をネットでも閲覧可能である 点から(c)に関しては全て関谷・後藤(1970)を利用し た(付録 2).但し,地震史料集の方が読者利用に簡 便であるので,付表2では武者(1951)の頁数で相当 情報の該当箇所を示してある.

## **『**破窓の記』[以下で(γ)]

著者城東山人は日本橋西河岸町に住む家主.本 名岩本左七,文筆をたしなみ風俗随筆叢書『燕石十 種』を編んでいる[e.g. 野口(1997)].本人は本郷の 酒屋大坂屋藤兵衛の息子と称している.地震直後か ら被災地を歩き,被害状況や火災の出火点などを精 査している.内容も他の地震記とよく整合している.

## §3. 江戸市中の火災の発生と焼失

既報[中村・他(2005)]において、焼失面積を詳しく 求め焼失域を地図上に示した.その後の安政江戸地 震の解析などで出火点と分かった地点や人について は収集していたが、今回は北町奉行所の火災調査 (d)の図面から判ることを基本として、さらに既報で抜 けていた焼失域(表 1 の M-1)も追加してそれぞれの 火元を検討した.

+月の月番奉行は南町奉行で,北町奉行は非番 であった.このような状況で調査が行われていた.ま た,個人としての調査には城東山人(γ)や斎藤月岑 (c)がある.これらは江戸市中全域ではなく,また文 字史料であるが,補足資料としては貴重である.これ ら三史料を基本として,必要に応じて付表1の史料も 使い,江戸市中の火災の焼失域と,判明した65 出火 点をまとめて,表1および図1に示した.

図 1(口絵)の橙色の領域は焼失域, 黄色い星印は 出火点が判明したものである. 一箇所に複数の出火 点が判明している領域がある一方で, 延焼や飛び火 とは考え難いのに出火点の星印が無い焼失域が5群 以上存在する. これらは火元の情報がなかった領域 である. これらに一箇所ずつの出火点があったと考え れば, 70 箇所以上火元があったことになる.

尚,大名小路(千代田区)については大名家の日 記などを複数照合すると,延焼の過程も大凡分かる ので,詳しい検討を4章で行う.以下の議論で焼失 面積は中村・他(2005)を参照した.推定震度は中 村・松浦(2011)から出火点に近い地点の値を表1に 示した.以下の文章でゴシック体は史料記述を示す. それぞれの史料は付表1の最左列の記号で示した.

#### 3.1 中央区の焼失域と出火元

中央区内は震度 5.0~5.5 の地点が殆どで, 極一部 の地点で震度 6.0 であったためか, 出火点数も少なく, Cu-4 以外は焼失域が広くない.

日本橋浜町2丁目(地図上の記号 Cu-1):浜町の水 野出羽守中屋敷(駿河沼津藩)の火災について(m) に「水野出羽守殿(中略)且又浜町中屋敷之儀は住 居向ニヶ所潰、其外家中長屋向皆潰之内潰家 5 出 火二而、長屋三棟土蔵ニヶ所焼失」とある.(d)に屋 敷内に焼失範囲と「燃立」の記述とがあり,上記史料 と整合する.長屋と土蔵が焼失したことが分かる.

京橋2~3丁目(Cu-4, 南伝馬町・他):商人の町であ り, 土蔵の崩壊が多く発生した. 火災も二ヶ所から起 こり, 広い面積が焼失した. 焼失面積は 0.15 km<sup>2</sup>. そ の原因は建物の倒壊を恐れて住人が逃げてしまった ことにある. (γ)は「斯る変事に依て人にはからずも 家を捨て 退きのがれたる後に あやまちて家より 火の出るものは、おのづから皆家主の罪を得るも の也 さればすべて家主をもてこゝに火元とす」と 出火の責任を断罪している.

尚,東京大学地震研究所(1985)では Cu-4 の出火 点の一つは河岸地に打たれている.前述の3種を比 較した結果,この出火点は神宮文庫蔵本の複写を使 った際に,史料の虫喰いを出火点と誤認したものと判 断した.その他の差異も表2にまとめてある.但し出 火点として(γ)に家主が二人挙げられているので,出 火点数は2のままである.

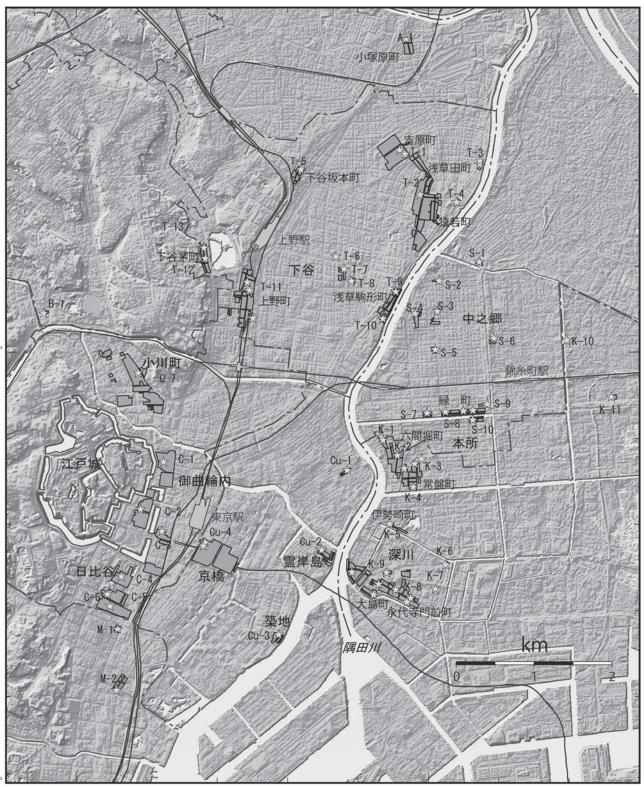


図 1. 江戸市中の地震火災の焼失図(橙色)と出火点(黄色星印). [中村・他(2005)に加筆]. 背景の現代の陰影起伏図には区境(茶破線), JR 東日本の路線(青線)と主な駅(灰色多角形)も示した. Fig. 1. Map of burned areas (orange) and locations of fire origins (yellow stars) in Edo city after the earthquake. The ward-boundaries (brown single dotted lines), JR East railways (blue lines) and major stations (gray areas) are also shown on the background map of the present elevation topography.

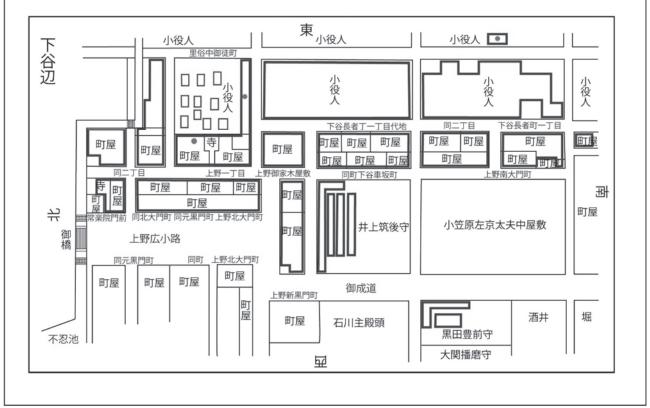
## 3.2 港区の焼失域と出火元

港区の埋立地は当時は無く,震度が大きくなる低地

部は狭かったので, 焼失域も狭く, 出火点も少ない. 新橋 2 丁目(M-1, 兼房町): (d) は十間以下として焼 失域を示していない.(γ)には「兼房町、松平兵部殿 屋敷共一口也。缺火元」とある.(c)は「兼房町の自 身番屋潰たるより出火して 隣なる松平兵部殿御 屋敷へ少々焼込、兼房町は大方潰たり。」とやや詳 しい.この記述から出火点および焼失域を新たに追 加した.焼失面積の詳細は不明で御屋敷への延焼 程度にもよるが,0.01 km<sup>2</sup>未満と推定した.

**東新橋 2 丁目 (M-2, 柴井町):**町内町屋のほぼ全域 と宇田川町の一部が焼失(d).(γ)に「柴井町月行事 房吉、火元ーロ也」とあり,房吉の家が火元とされる. 月行事(がちぎょうじ)とは「町内の地主,家持が毎月 交代で五人組ごとに選ばれ,自身番屋で町政事務を 行った」[小学館(1994)]とある.十月の役であった房 吉の家から出火したことがわかる. 後楽2丁目(B-1,隆慶橋辺):文京区で唯一火災の 発生した場所.武家屋敷5軒が焼失した.(d)には小 石川辺,清水御用人野中哲太郎に出火点の黒丸印 がある.

一方で,水戸藩上屋敷(後楽1丁目)では奥女中西 宮秀のとっさの判断で,火災の発生を抑えることがで きた.地震の収まった後「御殿へ引き返し 御手あぶ り 御あたため 火鉢など火の本あぶなくそのまま 御泉水へ投げ込み 金魚や緋鯉はふびんに思うけ ど 致し方ない」『落葉の日記』[北小路(1979)]と言 う行動に出た.水戸屋敷からは,長屋の倒壊により二 人の重鎮,戸田蓬軒と藤田東湖が死亡した.屋敷内 の被害などから震度 6.0 以上が推定されている.大き な揺れに襲われたが,文京区からは先の隆慶橋付近 が焼けただけで済んでいる.



## 3.3 文京区の焼失域と出火元

図2. 下谷辺の火災の状況. (太枠:焼失域,丸印:出火点)

上野広小路は火災の延焼を防いでいるように見える. [(d)に本文の3出火点追記]

Fig. 2. Fire in Shitaya region. (Thick box: burned area. Closed circle: three origins of fire) Ueno-Hirokoji square appears to prevent the fire from spreading to west. [Added to the traced map of (d)]

## 3.4 台東区の焼失域と出火元

台東区域は上野の山以外は震度 5.5 以上, 6.0 の 地点も多く. 焼失域も広く出火点も多かった.

**千束 4 丁目(T-1,新吉原):**新吉原では二つの史料 が地震以前に火災があったと記している.新吉原は 震度 6.0 以上の揺れがあり,建物の倒壊から新たな 火災が発生し、大きくなったものと考えられている.こ れによって、大門の内側ほぼ全域が焼失(d)となった. 蔵敷村(東大和市蔵敷)の名主内藤杢左衞門の日 記(δ)には「火之番人四ッ時之拍子木打鳴し時を報 し候塗炭ニ火事と呼声聞付候間、火之見へ登り見 候処、浅草向ふ吉原町と所々之火之見ニ而、半鐘 打なから呼下ニ付下り、先安心と申、四"時二付見 世之者へ寝二付へしと申掛ヶ候折、北東之方二当 り大筒之音二ひとしき声響キ渡り、上方下へ落る 如く震動いたし候間、是は地震なり。」とあり、この 時杢左衞門は仕事で日本橋橋本町の定宿津久井屋 新三郎にいた.火事に気づき火の見に登り吉原の方 向であることを確認し、やや遠い火事、先ず安心と思 ったところに大筒のような地震が襲ってきた.時間的 経緯から火事は地震前に起こっていたことが分かる. 因みに、里正とは名主を意味する.

(b)にも「吉原町は地震より少し前に大門内に火 の事あり、引つゝきて地震火事にてにくる事あた はす」とある.この記録の著者宮崎成身は牛込神楽 坂下に住む旗本である.直接火災を確認したわけで はなく,後で得た情報であろう.

(γ)には出火箇所を「新吉原五ヶ町、并五十軒 南 側は残る、共、一口也、此火元江戸町二丁目家主 松五郎、同町同幸吉両人也」とある. 焼失面積は約 0.1 km<sup>2</sup>であった.

花川戸1~2丁目(T-2,浅草寺地中):浅草田町から 猿若町,浅草寺地中町屋,十八ヶ寺など含めかなり 広く焼失(d).(c)に「浅草寺地中より燃立、田町、 山川町、花川戸町、猿若町焼失。凡長八町餘、幅 貳町半程。」とあり,焼失面積は0.17km<sup>2</sup>であった.

(y)は「此火元浅草寺地中家主小兵衛也」と記しているが、これだけ大きな領域が一ヶ所の出火元で焼失したのだろうか.今回は判明した1点のみ図1に示した.

**下谷 2 丁目(T-5, 下谷坂本町):**出火元は坂本町三 丁目と共通であるが,(d)には「右兵衛店静安」,(γ) では「此火元参丁目五人組持居医師清庵也」とある. 静安と清庵の違いは,どちらかが間違えて記したので あろう. 焼失面積は約 0.02 km<sup>2</sup>であった.

**駒形1丁目(T-9,駒形町),蔵前2丁目(T-10,三好** 町):浅草駒形町から浅草諏訪町までと,浅草三好町 から浅草黒船町の町屋が焼失(d).(γ)に「此火元駒 形町家主亀次郎、三好町同彌兵衛」とある. T-9,10 を 合わせた焼失面積は 0.04 km<sup>2</sup>であった.

上野3丁目(T-11,上野町一丁目):(d)では,北は上 野町二丁目から南は上野南大門町まで,町屋,役人 居宅,大名屋敷の一部が焼失であるが,出火点はな い.一方(y)に「下谷南大門町、北大門町、同所同 朋町、同長者町壱丁目、同弐丁目、同所常楽院門 前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元上野 町家主與兵衛也」とある.焼失域は(d)と同一である. (c)には3箇所に分散しているが「上野町壹丁目裏 森川久右衞門殿組御徒士組やしきより出火」「凡長 六町半餘幅平均壹町十間程。」「下谷仲御徒町なる 東側御手先美濃部八蔵殿(中略)火起こり」とある. これら3出火点を図2に落とすと,2箇所は焼失域の 北寄りである.美濃部宅以外にも南大門町や長者町 の南側に他の出火点もあった可能性もあるが,今回 は判明箇所のみとした. 焼失面積は 0.11 km<sup>2</sup> であっ た.

池之端 1~2 丁目(T-12 下谷茅町, T13 池之端七軒 町):(d)には下谷茅町一・二丁目町屋焼失, 二丁目 町屋北南に黒丸印, 池之端七軒町, 清左衛門店松 蔵に黒丸印が示されている.(y)に「下谷茅町壹丁目、 貳丁目、池之端七軒町、講安寺門前、稱仰院門前、 其外門前地五六ヶ所、総而一口、此火元茅町壹丁 目家主清兵衛、同貳丁目同金七、池の端七軒町同 清左衛門、右三人也」とある.(c)には「下谷茅町二 丁目より燃立最寄武家燒失 池の端七軒町より燃 立 凡長二丁半餘 幅平均四十五間程。」とある. 不 忍池近くの町屋 3 ヶ所から出火. 焼失面積は 0.025 km<sup>2</sup>であった.

#### 3.5 荒川区の焼失域と出火元

南千住7丁目(A-1,小塚原町):小塚原町の百姓町 屋を焼いた.(d)には黒丸が三ノ輪町飛地にある.

「凡長壹丁半餘、幅平均五十間程」(c) が焼失. 焼 失面積は約 0.02 km<sup>2</sup> であった. 地震の揺れは震度 5.5 程度と推定されている.

## 3.6 墨田区の焼失域と出火元

墨田区域は殆ど震度 6.0 以上であるが, 出火点も S-1 以外は震度 6 程度であった.

東駒形2丁目(S-3,北本所荒井町):(d)は北本所荒 井町北端に黒丸印で,町屋が飛び飛びに焼失した. 東駒形1丁目(S-4,北本所馬場町):(d)は北本所番 場町北端に黒丸印があり,町内の町屋が焼失した.

**緑1丁目(S-7,本所緑町一丁目):**(d)には一丁目に 1ヶ所黒丸がある.

**緑町3丁目(S-8,本所緑町三~五丁目・同花町)**:(d) で二丁目は焼けず,三丁目から花町まで東西に延び た堅川通に沿った町屋が連続して焼失している.(y) には S-8 の家主4名の火元がある.(d)には S-9 の本 所入江町にも黒丸がある.堅川(たてかわ)の対岸の 立川4丁目(S-10,本所徳右衛門町)にも S-9 から堅 川を越えた本所徳右衛門町一丁目,二丁目の町屋 が焼失しているが,(d)に出火点は示されていない. (y)に「**此火元二丁目家主與兵衛也」**とある.S-7~ 10 の焼失面積合計は 0.05 km<sup>2</sup>であった.

#### 3.7 江東区の焼失域と出火元

江東区域も殆ど震度 6.0 以上の地点が多いいが, 出火点が多数ある広い焼失域の連なりが目立つ.

新大橋 2~3 丁目, 森下1丁目(K-1, 御船蔵町, K-2, 深川六間堀町, K-3, 森下町):この地域は狭い町 内に深川六間堀町が大きく占める. (d)ではこの3町 の殆どが焼失し出火点は4ヶ所ある. (γ)には各町2 名ずつ計6家主が火元とされる. K-4も含めた焼失面 積は 0.11 km<sup>2</sup>であった.

常盤2丁目(K-4, 深川常盤町):(d)には焼失域は示 されているが,出火点はない.(y)に「深川常磐町壹 丁目、二丁目、一口也、缺火元」とあることから, K-4として図1に示した.

**清澄 2~3 丁目(K-5, 深川伊勢崎町):**(d)は深川伊 勢崎町町屋の西端に黒丸印,仙台堀に囲まれた同 町の大部分と松平美濃守下屋敷の一部焼失である.

**富岡 2 丁目(K-7, 永代寺門前東仲町)**:(d)は三十 三間堂脇の町屋の一部焼失で,黒丸印がある.(γ) に火元は「**東仲町金次郎」**とある.

門前仲町 1~2 丁目(K-8, 永代寺門前町・他):(d) は永代寺門町,同山本町,同門前仲町の町屋の広 範囲を焼失,出火3ヶ所と記す.(γ)は「此火元永代 寺門前町家主竹次郎、同町與兵衛、(中略)同所山 本町同金平」としている. K-9 を含めた焼失面積は 0.14 km<sup>2</sup>であった.

永代 1~2 丁目(K-9, 深川熊井町・他): (d)は深川 中島町他 7 町焼失である. 出火元として深川大島町 と同黒江町の町屋にそれぞれ黒丸印がある. (γ)には もう 2 ヶ所火元が加わり,「此火元熊井町家主利八、 大島町同幸次郎、黒江町同善兵衛、蛤町同伊右衛 門、右四人也。」とある.

## §4. 大名小路の火災の動き

#### 4.1 江戸城の施設

大手門前の腰掛については(q)に「御城内下乗 腰掛潰出火ニ付消防[]出候様御徒目付を以御 目付大久保右近□□御達御座候得共御屋敷出火ニ 付消防御□□差出兼候趣御留守居上田左太夫御城 当番所江罷出御徒目付森文八郎[]御届申上候」 と記されている.酒井家(播磨姫路藩)は大手門前に 上屋敷,添屋敷がある(図3のC-1).日記には腰掛 から出火と記録されており,消火の手伝いを依頼され たが,自家も火災でお手伝いを断っている.

和田倉御門内の大番所と腰掛について(i)は「和田 倉御門内大番所やける同所腰掛やける」,(d)では 日比谷御門の大番所,山下御門内大番所が共に焼 失している.

## 4.2 御曲輪内(大手町,皇居外苑,丸の内)

大手町1丁目(C-1,大手前)について(s)に「竜(た つ)の口角森川出羽守様焼る。大手前は酒井雅楽頭 様やける、表御門残る。御向屋敷焼る。」(q)も「御 住居辺ゟ出火追々火勢[]]御住居向并御殿向初 御焼失御添屋敷口口御隣屋敷ゟ出火不残御類焼尤 御上屋敷表御門新御門御土蔵三ヶ[]御住居御 物見御茶屋并稲荷社銅御[]]残申候」と記されて いる.図4に示すように添屋敷を含め三屋敷が焼け ており,酒井家上屋敷の南西角の一部が残ったこと が図面や日記から分かる. (z)には「晴光院様御住居御口番之部屋に大火鉢 有之、火を盛んにおこし置候処、右上江潰落候故 出火ニ相成」とあり、将軍家斉の娘で酒井雅楽頭家 第18代忠学に嫁して地震当時は先々代未亡人だっ た晴光院住まいの火鉢から出火している.当時養子 が次々夭逝した酒井家に於いて、将軍の娘である未 亡人で先代藩主未亡人の母である晴光院は、姫路 藩にとって最も頼りになる存在として上屋敷に居り、 暖房も贅沢に使っていたのが出火原因となった.

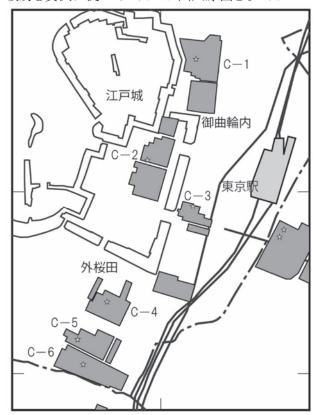


図3.御曲輪内から外桜田の焼失域. 星印は出火点現在の東京駅と鉄道路線や区境も示した.

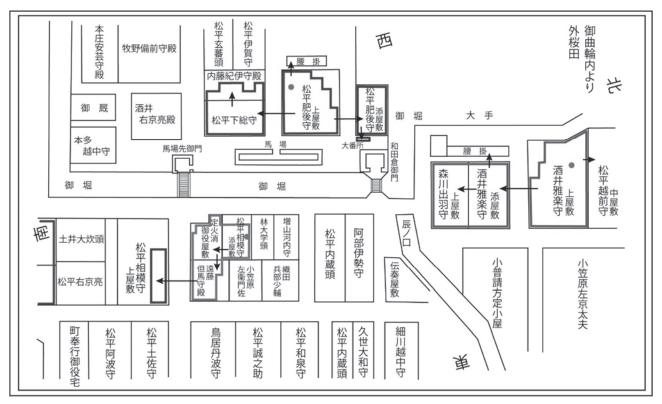
Fig. 3 The burned areas in the inside of Okuruwa and Outer-Sakurada. Stars indicate locations of fire origins. The present Tokyo Station, railways, and ward boundaries are also shown.

松平越前守家中屋敷(北側に隣接)についての同 家史料(h)に「一 地震後酒井雅楽頭殿ゟ出火に て拍子木戸番所弐間に壱間類焼 一 御宮所々破 損 一 御庭内稲荷社類焼」(α)に「大手酒井雅楽頭 様御屋敷ゟ出火森川出羽守様御屋敷御類焼」とある ように,酒井家上屋敷から出火,同家添屋敷に延焼 し,さらに森川出羽守上屋敷までも燃やしてしまった ことが分かる.酒井家北隣の松平越前守中屋敷でも 番所と稲荷社が類焼したと記録している.このことは 図4にはない.この中屋敷が晴光院と同様将軍家斉 の娘で,春嶽より二代前の藩主未亡人である松栄院 の住まいだったことから,幕府に配慮して仔細に報告 した様である.

皇居外苑(C-2,和田倉御門内)にあった松平肥後 守(陸奥会津藩)及び松平下総守(武蔵忍藩)の火災 について見てみよう。(m)には「松平肥後守殿 一和 田倉御居屋敷御住居向長屋共相潰焼失内長屋三棟 大破二而相残并御預屋敷皆潰焼失」、(α)には「松 平肥後守様御屋敷ゟ出火口口御添屋敷夫ゟ松平下 総守様、本夛越中守様、本庄安芸守様御屋敷/ 不残御類焼」、「内藤紀伊守様も御類焼と相見候得 共本文ニ認無之」とある.実際は本多越中守(陸奥 泉藩)と本庄安芸守(美濃高富藩)は火が入ってはい ない. 細川家の見誤りであろう(図 4). (i)に「和田倉 御門内大番所同所松平肥後守様中やし記(添屋敷力) 共やける同所腰掛やける同南松平下総守様やけ る」, 内藤紀伊守上屋敷(越後村上藩)側からは(u) に「其内御憐 (ママ) 屋鋪下総守様 5 出火 御屋鋪 御台子 (ママ) 并二御登城御門の辺より出火二相成」 と松平下総守屋敷からの延焼と記しており, (α) L 整合する.これらの記録から判断して,火災は松平肥 後守上屋敷から出火し,同添屋敷,松平下総守上屋 敷へ延焼,さらに内藤紀伊守上屋敷の半分を類焼さ せた.

丸の内 2 丁目(C-3, 八代洲河岸)にあった松平相

模守(因幡鳥取藩)及び定火消屋敷そして遠藤但馬 守(近江三上藩)について見てみよう.(k)に「御殿初 御長屋向過半潰、其上北御長屋外内通共御類焼に 付 殿様一旦日比谷御門外へ御立退被遊(中略)ー 火消御役屋敷より北表御長屋江火移り阿州様御人 数操入相働候得とも火勢強御殿向風下ニ相成候折 柄表御門前ニ町火消人足相見へ候ニ付隼人罷出消 防申談候処池田播摩守様御組同心馬(カ)藤七郎と 申者応答致し怪我人多竜吐水迄も損し(中略)相模 守居屋敷過半潰、且又類焼仕候、并八代洲河岸添 屋敷不残潰、其上類焼仕候」とある.(k)は鳥取藩士 による自家の記録となる.ここで御殿とは鳥取藩添屋 敷を指す.火は定火消屋敷からのもらい火で北表長 屋が類焼(図 4.), 近隣の阿州様(徳島藩松平阿波 守), 勘定奉行池田播磨守(屋敷は神田橋御門外)と 町火消しの人手を借りて, 竜吐水は壊れてしまったが 懸命に消火活動を行っている. あくまでも両家ともに 自分たちは類焼,と主張している.(p)には大名小路 遠藤但馬守様は不残焼失とある. 八代洲河岸のこの 一角は定火消屋敷からの火で焼けたと鳥取藩は言う が、ここでは(d)の出火点の松平相模守添屋敷を採 用する. 類焼経路は図4の矢印となる.



## 図4. 御曲輪内および外桜田辺の火災の状況-1

矢印は延焼方向を示す.他は図2と同様.

Fig. 4. The detail of burned areas around the inside of Okuruwa and the outer area of Sakurada gate-1. Arrows indicate the direction of fire spread. Other legends are the same as Fig. 2.

## 4.3 外桜田(有楽町,日比谷公園,内幸町)

有楽町1丁目(数寄屋橋御門内)にあった本多中

務大輔(三河岡崎藩)と永井遠江守(摂津高槻藩)の 上屋敷も焼失している(図 5).「近辺ゟ出火ニ而私 居屋敷類(焼脱力)仕候、此段御届申上候 以上 十 月三日 本多中務大輔」(β),「上 本多中務大輔殿 上 永井遠江守殿 右住居向并内外長屋共皆潰其上 焼失」(e) とあり,本多家も永井家も出火元とは書か れていない.

また,本多に隣接する土井大炊守上屋敷(下総古 河藩)と松平右京亮上屋敷(上野高崎藩)は(m)に

「一居屋敷住居向潰大破(中略)一長屋四棟潰一 同三棟大破一同一棟類焼」,(β)に「御居屋敷一 表御門潰御玄関大破(中略)一稽古場并物置南之方 隣境板塀不残類焼」と土居家も松平右京亮家も共に 若干類焼をしている.この一角の出火点はわからな いが,焼失してしまった本多・永井両家のどちらから か,あるいはそれぞれ出火したと考えられる.しかし, 今回はこれ以上確実に火元を特定できなかったため, 出火点としては追加していない.

次に日比谷公園(C-4,外桜田)にあった松平肥前 守上屋敷(肥前佐賀藩)および松平大膳大夫上屋敷 (長門萩藩)の火災を見る.細川家は(a)に「外桜田 松平肥前守様(中略)屋敷不残焼失」,佐賀藩支藩は (o)に「御本家二は地震甚敷ゆり倒し候上、火燃上 り候付死人凡四拾人程も有之」とある. 佐賀藩本家 の松平肥前守屋敷は全焼し被害甚大である.

(o)は「御焼失御近火御見舞御使者御便等今暁 5 段々差候出 左之通 御類焼 松平大膳大夫様 御近 火 上杉弾正大弼様」(o).火は本家である佐賀藩上 屋敷から燃え上がり,松平大膳大夫上屋敷が類焼し, 上杉弾正大弼(出羽米沢藩)上屋敷は火災を免れた と記している.これらの記録は(d)と整合する(図 5).

萩藩の記録で(f)に「鍋島境大番丁作事焼失、御 厩ハ不焼及鎮火候由ニ而委曲不分二而候事」と,(y) に「上御屋敷の処鍋嶋様御屋敷内ゟ之出火にて御 作事固屋近辺の組固屋不残、大番丁東ヶ輪不残致 類焼、其外御火災におゐては別条無御座候」,「猶 土蔵内長屋皆潰の場所ゟ出火に相成、内長屋焼失 仕侯」とある.鍋島(佐賀藩)家との境に近い作事小 屋が類焼し,内長屋の潰れた場所からは火の手が大 きくなり,焼失した.(y)には「外桜田松平大膳大夫居 屋舗潰家ゟ出火にて焼失仕候、尤類焼は無御座候 得共」とあり,自分たちの出火は他の屋敷に類焼させ なかったと安堵している.

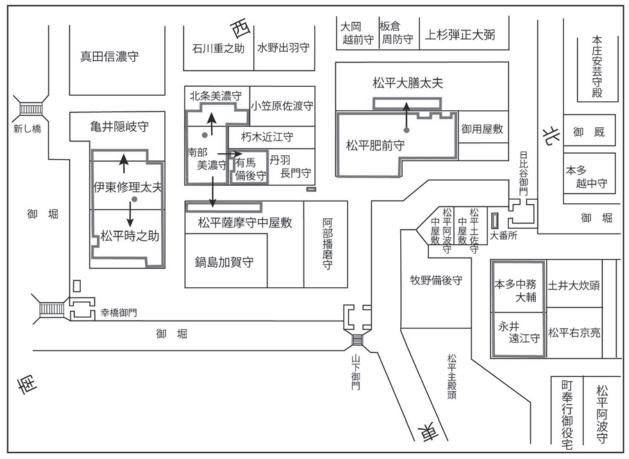


図 5. 御曲輪内および外桜田辺の火災の状況-2 (図 4 左端の続き)

Fig. 5. The detail of burned areas in the inside of Okuruwa and the outer area of Sakurada gate-2. The left continuation of Fig. 4. See captions of Fig. 4.

日比谷公園(C-5, 幸橋御門内)ではさらに大きな火 災が発生した. 南部美濃守上屋敷(陸奥盛岡藩)と有

馬備後守上屋敷(下野吹上藩)が周囲の屋敷を捲き 込んで焼失した. 盛岡藩の史料(t)には「御上屋敷御 殿不残潰れ候テ長屋通も相潰れ御近辺ゟ出火有之 御屋敷よりも出火ニ付御上屋鋪不残御焼失相成」 とある. 盛岡藩の屋敷から出火し, 残らず焼失したと 記録している.近辺の出火とは松平肥前守屋敷ある いは伊東修理大夫屋敷を指すものと考えられる.南 部家の北に位置する有馬備後守上屋敷(下野吹上 藩)は(v)に「御居屋敷大破潰之上御類焼ニ而、死 人拾九人 馬六疋有之旨御届之由、有馬備後守様」 とあり, 盛岡藩上屋敷からのもらい火で屋敷のほとん どが焼けてしまった.また.西側には北条美濃守上屋 敷(河内狭山藩)があり、(o)に「御類焼 北条美濃守 様」、(t)に「隣北条侯邸の火災亦覆来る依て御作事 所へ人を馳て鋸切を以て乱材を剪断然れども」とあ る. 北条家は南部家からの火で類焼したが、その火 が再度戻って南部家は悪戦苦闘するほど,ここの火 災は激しい.

さらに(t)には「朽木侯邸の火近く餘炎頻に及ぶ又 公邸も三四ヶ所ゟ火起る此時既に御台所の火熾に 燃邸中火四方に延焼す」とある.南部家の北隣の朽 木近江守(丹波福知山藩)上屋敷は三方向が火の海 であったが,一部類焼,屋敷全体の焼失は免れた. (d)では全く焼けていない.

道を隔てた東隣の鹿児島藩の文書(j)によると「一 御家老御長屋 一西御長屋 右弐行焼失」で、松平薩 摩守中屋敷の家老長屋と西長屋が焼失したことが分 かる.こちらは(d) と整合する.南部家から出火した 火は、周囲三家を巻き込んだことになる.

内幸町 1~2 丁目(C-6, 幸橋御門内)にあった伊東 修理太夫上屋敷(日向飫肥藩)と松平時之助上屋敷 (大和郡山藩)そして亀井隠岐守上屋敷(石見津和野 藩)を見る.(d)では上記二屋敷と亀井隠岐守上屋敷 の一部が焼けている.(s)には「幸橋御門内は柳沢時 之助様、伊東修理太夫様、亀井隠岐守様中御長屋 一棟焼る 爰にて止る」とあり, 三屋敷が焼けた(d)と 整合する.

(o)には「外桜田辺火炎盛二相見候付火元見差出 候処伊東修理太夫様出火、其向寄諸家大火二而桜 田御屋敷(松平肥前守上屋敷のこと)火移り燃上り 候趣依之早速御同勢可被差出二付及手当候処」,

「御類焼 亀井隠岐守様」となっている. 鹿嶋藩上屋 敷は青山(六本木)にあり, 幸橋御門からは遠い. 外 桜田辺の火炎が大きくなったので, 鍋島本家(松平肥 前守)や同じ分家筋にあたる鍋島加賀守の肥前小城 藩上屋敷が外桜田にあることから, 火元見(江戸時代 火災の現場に出張し火元を見届けて報告する役)を 出して火災の確認を行った.

伊東修理太夫家は(β)に「**外桜田亀井隠岐守居屋** 鋪境長屋潰ゟ出火仕、直様私居屋鋪西側境長屋江 火移、住居向始表門其外長屋不残類焼仕候、此段 御届申上候 十月三日 伊東修理太夫」と亀井家 からのもらい火であると,幕府に届けている.

一方, 亀井隠岐守家史料(w)は「十月二日江戸大 地震御屋敷内御殿向始御長屋大破表長屋潰れ焼失 (中略)一裏小屋 御日記蔵潰れ焼失」とそのままを記 している. (d)では両家の境を出火点としているが, そ れぞれの屋敷の焼失面積の差などから, 伊東修理太 夫家から出火し, 松平時之助屋敷と亀井隠岐守屋敷 に類焼したものとした.

#### 4.4 小川町(神田神保町)

神田神保町1丁目(C-7,小川町)にあった堀田備 中守上屋敷(下総佐倉藩)の火災を見る.この一帯は 大名家の上屋敷や旗本の屋敷が多く存在したところ である.揺れが強く、広い範囲が焼失した(図 6).(d) には焼失範囲は示されているが、出火点については 全く触れられていない.

堀田家の出火については所領での史料(x)に「十 月四日 天気ヨシ霜フル西風佐倉役所江書付上ル 江戸御上屋舗ツブレ御殿様寝込ノ儘御取刀ニテカ ケ出ル直ニ焼失ニナルト言飛却来ル」,「十月八日 (中略)江戸殿様上屋舗ツフル直ニ焼ル殿様寝込の 儘御本丸江登城」とある.豊田家は佐倉藩成田村の 名主である.十月四日と八日に江戸屋敷の情報が佐 倉に届いたことがわかる.地震後夜の内に堀田は自 分で歩けたのか,運んで貰ったのか兎に角登城した. 翌日上屋敷は既に全焼だったので,下渋谷村の下屋 敷(渋谷区広尾の日赤病院)に入り,8日まで登城で きなかった[北原(2004)].

さらに詳しい記録が(1)に「堀田備中守殿小川町在 住の節地震にて屋敷悉く潰れ当主崩家の下になら る其時陸尺伝蔵平右衛門といふ者両人駈来り家根 瓦を取り除け漸救ひ出したりまた侯僅に足を怪我 致されけれ共其儘登城有之尤此夜は御用召御内意 故奥表共御用書物調にて灯火炭火等も沢山に有之 ゆへ直に出火となり当主留守中に屋敷不残焼失事 鎮て後右陸尺伝蔵平右衛門二百石宛被下無役の者 に被召出しとなん」とある.この文書が誰の編纂によ るものか不明であるが、地震直前に幕府から内々に 出頭するよう命令があったことになる.深夜に急いで 書類点検の必要に迫られ、照明と暖房を沢山使用中 で出火し易かったと考えられる.

千葉県内務部(1922)の堀田正睦の評伝にも「安政 ニ年十月三日突如として閣老連署の召命あり(中 略) 正睦は即ち幕閣の首相たるべき榮任を辱うせ しなり」とあり,前記(1)を裏付ける内容となっている. 堀田正睦は公式には十月九日に阿部伊勢守の推挙 で老中に再任されている[北原(2004)].正睦を救っ た二人の無役の家来は二百石を貰えた.堀田の上屋 敷は大きく潰れ,邸内から火災を起こした.怪我を負 って正式な老中就任も若干遅延したのだろう.(d)に ない出火点を図6には追加した.

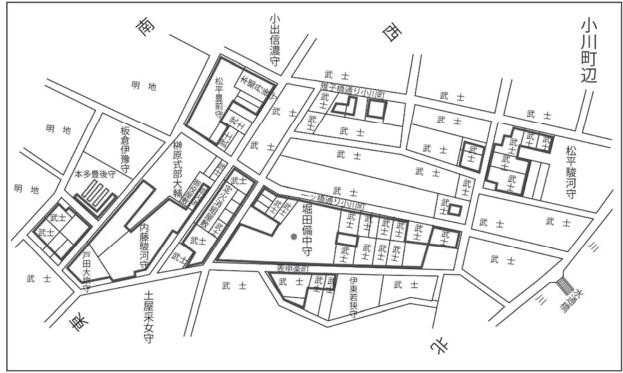


図 6. 小川町辺の火災の状況. [(d)の p.236 に1出火点を追加.] Fig. 6. The detail of burned areas around Ogawa-cho. See captions of Fig. 4. One fire origin point is added to the figure of (d)-p.236.

## §5. その他の事項

## 5.1 消火活動

水戸藩上屋敷と松平相模守屋敷(鳥取藩)の消 火活動については既に述べた.その他に市中の活 動について述べる.

(c) に「神田佐久間町 同所隣町人数並藤堂佐竹 生駒三家の人数にて鎮す」とある. 佐久間町は千代 田区佐久間町3丁目あたりで,秋葉原駅の東,神田 川の北沿いの町である.町方の火災を,藤堂和泉守 (伊勢津藩)と佐竹右京大夫(出羽久保田藩)そして 生駒(矢島藩)の家中が協力して消した、と記録して いる.藤堂家は佐久間町のすぐ北側,佐竹家は台東 3 丁目佐竹通り付近, 生駒家は台東二丁目の竹町金 比羅神社付近と、いずれも佐久間町から徒歩10分以 内の北側に屋敷があった. 延焼防止に初期消火に加 勢したと考えられる. 別史料には消火に尽力したのが 佐竹・立花両家になっているものもある.しかし,立花 家は東上野1丁目で佐久間町から1km以上離れて いる. 北隣の藤堂が動かない時に, 上野広小路付近 の火事の方がよほど近く気になるはずの立花が佐久 間町消火に出動するのか,疑問である. 『武江地動之 記』の異本検討などを行う際には、こうした記述内容 の合理性を,地理的にも検討することが重要である.

因みに佐久間町は、大正関東震災時にも町内の水 路の水を生かした長時間のバケツリレーでみごとに周 囲からの延焼を防いで焼失を逃れた.類焼防止に重要な消火用水の確保ができる地の利がある町は,安 政期にも,大勢の協力があれば,延焼防止に成功していたことは,災害教訓として重要である.

### 5.2 広小路は機能したか

火災の延焼を防ぐ目的で,幕府は広小路を作った. その一つである上野広小路周辺の上野町は安政江 戸地震で広く焼失した.図2は下谷辺で,現在の外 神田5丁目(千代田区)から上野3~6丁目(台東区) に広がるところである.南北に御成街道,上野広小路 が続き町を東西に分けている.

地震後に「上野広小路東側中ほどより失火」(s) とあるように、旧上野町一丁目の町屋と小役人屋敷か ら出火した.図2にあるように上野町一丁目、二丁目、 上野北大門町、上野町元黒門町などが焼失した.し かし、その火は上野広小路をはさんで西側の上野北 大門町、上野町元黒門町へは延焼をしていない.同 様に御成道をはさんで、井上筑後守屋敷の火が上野 新黒門町町屋や石川主殿頭屋敷には及んでいない.

小川町辺(千代田区神田神保町)も大きく焼失した. 図 6 をみると、図中央に堀田備中守上屋敷(下総佐 倉藩)があり、堀田屋敷と周辺の武家屋敷が広く焼け ているが、南北に通る一ツ橋通りを挟んだ西側の武 家屋敷は殆ど火災に合わず残っている.一ツ橋通の 空間が火災の延焼を妨げた可能性が高い.

大名小路も同様に広い道路が通っている(図4).鳥 取藩の(k)によれば上屋敷周辺通路は「巾八間余」 とある.即ち八代洲河岸も含めて約15mの空間があ ったことが分かる.この位の道幅があって,著しい飛び火を起こさない程度の風であれば,延焼を防ぐことができそうである.

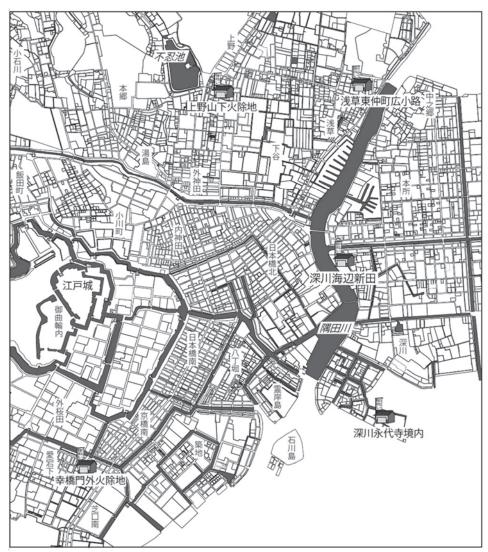


図 7. お救い小屋の位置.

被害の大きかった地域の近くに5ヶ所建てた.縦の文字は江戸期の地域名.[北原(2004)に追加]

Fig. 7. Location of the salvation huts for victims [added to Kitahara (2004)]

Five were established near heavily damaged areas. Place names at that time are shown in blue characters.

## 5.3 発生後の幕府の対応

幕府は地震の直後(恐らく1時間後位)に南町奉行 所に対策本部を立ち上げた.そして9項目の救済案 をつくって実行に移していった.その上位に,家を失 った人々を救う施策があった.炊き出し握り飯の配布, 御救い小屋を建てる,怪我人を救療すること等(a)で ある.炊き出しは当日から,お救い小屋は十月五日か ら入居がはじまった.炊出し所は上野大門町,牛込神 楽坂穴八幡御旅所,芝神明宮境内,深川永代寺(c) であった.また,御救小屋を5ヶ所に建てたが,その 位置は大火災のあった場所に近いところであった(図 7).浅草東仲町広小路,上野山下火除地,深川海辺 新田, 深川永代寺境内, そして幸橋門外火除地(c) である. これらの場所は, 倒潰, 焼失した家屋を片付 ける必要の無い空間であり, 小屋の設置が復旧の妨 げにならない所でもあった. 幕府の危機管理は行き 届いたものであった.

また,出火元の処罰について,町方については「十 月十四日火元の町々北御奉行所江被召出、天災の 事に付御咎の儀に及れざる旨を令せらる。」(c)と, 奉行所の計らいは寛大なものだった.

#### §6. おわりに

近代以降,安政江戸地震直後の江戸で火災の火

元となったのは、長らく三十数ヶ所とされてきた.斎藤 月岑は 50~60 箇所と思っていた.東京大学地震研 究所(1985) p.257 に(d)の江戸全体図と称して、出火 地点として 40 箇所が示されている(付録 1).今回は 出火点が(d)で示されていない焼失域なども、他の史 料を用いたことによって、合計 65 箇所の出火点を特 定した.出火点の情報がなく孤立しているように見え る焼失域も図 1 で 5 群以上残っているので、火元は 従来の通説の倍、月岑の概数より更に多かったことが 確実である.

この地震は、風が弱く、炊事の火種が多くない時間 帯であったため、江戸での火災被害は軽く、延焼面 積が狭かった、としてよく知られており、今回の半分程 の火元数の通説に異論は少なかった。今回、従来の 震度判定作業などの過程で系統的に整理していた地 点ごとの情報を、最初に示した信頼できる三史料の 火災情報を軸として吟味することによって、出火箇所 が従来から倍増した。

その結果,火災を出したのは地盤が悪い,従って 震度が大きい地域が多いことが明確となった(図 1, 表 1).特に一繋がりになった焼失域に多数の出火点 が判明している領域は,東京の低地帯の中でも地盤 の悪い地域であることが図 1 からも明白である.一度 に狭い領域で何箇所からも火の手が上がると,初期 消火に失敗しがちであることは,現代にも通じる教訓 となるだろう.

城東山人は地震の後,半鐘の音が聞こえたので「屋 の上によぢ登りて見れば、東は本所、巽は深川、 西は丸の内、乾は小川町、南は京橋の辺り北は下 谷、艮は千住、吉原、浅草、すべて火の口はたち ばかり見ゆ」(y)と記しており、20 口程度の火災を確 認した.また、「江戸に十八所の火事出来て、ひるま は薄暗き所も昼よりあかるくなりぬ、其内ニ戸田、 藤田地震の為ニ死去致ス由申上る」(『落葉の日記』) と水戸藩奥女中は記録している.このように古くから 云われてきた 20~30 余箇所の火元は,実際の出火 点数ではなかった. 幾つかの火災が集まり, 火の筋を 形成する. その火柱を江戸の人たちは「火口」と呼ん だ. 数十の火口の数が, そのまま出火点数として近現 代で誤解されてきたようだ、今回火元の数として火口 の倍以上が判明したとは言え, 強震による密集した木 造構造物の都市での出火点数としては少なく,幸運 な例だったと言える.

さらに本論で、御曲輪内から外桜田にあった大名家 上屋敷の火災について、出火点から延焼に至る過程 が判明した.これらからは、大勢による初期の効果的 消火活動に加えて、広小路、広い道路、堀や川など も火災の延焼防止に効果があったことが判る.しかし、 それは地震当日の天候、即ちほぼ無風に近い状態 が大きく幸いしたことを忘れてはならない.

尚,森下・大窪(2014)は火災が新収版の焼失図

(付録 1)にある 42 箇所から平均的季節風向によって 北・北西から南・南東方向に主として延焼したと仮定 した検討を行い,水路や広い道路などが焼け止まりに 効果があったとしている.しかし,火炎の写生図[e.g. 松浦・中村(2023)]などからも,火災が巻き起こす風 よりも強そうな気象風の影響は,地震当夜は小さかっ たと推測される.今回彼らが使用したものより 1.5 倍以 上と判明した出火点と焼失域との分布(図 1)からは, 必ずしも南・南東への延焼が卓越してはいない.例え ば,神田佐久間町は北側の現台東区域の武家から 大勢の加勢があって消火に成功している.延焼が南 方向のみとは限らないことを心配してこその行動だっ たであろう.

火除け地に関しても、例えば図6の堀田家からの火 事は、南側の明地(=火除け地)より北側の板倉邸よ り北側で焼け止まっている.小川町の焼け止まりに必 ずしも火除け地だけが有効だった訳ではない.彼らの 論考とは合わない.もし風が強かったなら、水路や広 小路が十分延焼防止に機能したのだろうか.それら の効果と飛び火の威力とを定量的に評価せず、限ら れた出火点と、仮定した季節風だけから安政江戸地 震の火災状況を解析しても、現代に有効な教訓を導 き出せない.個々の消火や延焼にまつわる史料記述 などからは、消火を阻み、火災を広げる要因として、 南部藩の苦闘にも見られたように、建物倒壊の集中 が考慮されるべきである.歴史災害の教訓を現代に 生かすには、災害の拡大と抑制の両要因を重要なも のから正しく押さえていくことが重要である.

この地震は太陽暦の11月11日に発生している. 立 冬直後ではあったが,現在よりは冷涼な気候の時代 である. 近世末期には社会の進展によって,照明はも ちろん,暖房という火種が大名家やインテリ達の家で は夜遅くても意外に多く存在していたことは,4.2節の 酒井家や4.4節の堀田家の具体例からも判る. 地震 後に戦支度で登城した大名もいたほど[e.g. 北原 (2004)],開国派の攘夷派に対する巻き返しによって, 中庸だった阿部正弘の老中首座退任が実質的に決 した直後という緊迫した状況の江戸では,夜更けの地 震時に,まだ起きていた人も意外に多かった. 逆にこ れが今回火元をかなり特定できる史料が残された原 因でもある.

幕末の地震で斎藤月岑の様に自分で情報を収集し た人による書だけでなく、噂や別書からの転記などの 情報も入れれば、出火点は更に増える可能性はある. しかし、表 2 に示した様に、写しによって同じ原本史 料でさえも焼失域や出火点は若干異なる.まして世 間受けする扇情的内容で部数を伸ばそうと、現代で 言えば週刊誌風の噂話満載を厭わない多数の史料 の山から、本当の火元を特定する作業は容易ではな い.今回は情報自体の信憑性が担保できる3 史料を 中心に、従来の火口数からほぼ倍増した確度の高い 出火点のみを取りまとめた.

## 謝 辞

本研究の一部は,東京大学地震研究所共同利用 (2022-D-12)の援助を受け,文部科学省の委託を受けて実施された歴史地震の系統的解析結果も利用した.東京大学史料編纂所杉森玲子教授には齋藤月 岑の別号,落款,蔵書印を,早稲田大学山田眞名誉 教授には大熊喜邦の講演録を,北原糸子氏には『落 葉の日記』を,それぞれ御教示いただいた.編集担 当の加納靖之氏と,匿名の査読者2名の意見で本稿 は改善された.記して感謝する.

対象地震:1855年安政江戸地震

## 洧 文

- 千葉県内務部, 1922, 正睦再度の入閣, 堀田正睦, 昭文堂刊, 第2章, 11-13.
- 江戸叢書刊行会, 1917, 武江地動之記, 江戸叢書, 9, 1-65.
- 北小路健, 1979, 水戸藩奥女中の日記(中), —新史 料「落葉の日記」について, 歴史と旅, 二月号, 274-279.
- 北原糸子,2004,第2章 災害の社会像,1855 安政 江戸地震報告書,中央防災会議,災害教訓の 継承に関する専門調査会,43-127,内閣府.
- 松浦律子・中村操, 2023, 1855 年安政江戸地震火災 の彩色写生画について, 歴史地震, 38, 51-62.
- 森嘉兵衛, 1970, 飢饉 悪疫序, 日本庶民生活史料 集成, 7, 三一書房刊, 1-6.
- 森下雄治・大窪健之, 2014, 安政江戸地震における 地震火災に関する研究-江戸の都市防火体制に

着目して-,地域安全学会論文集,22,11-21.

- 中村操・茅野一郎・松浦律子,2005,安政江戸地震 (1855)の江戸市中の焼失面積の推定,歴史地 震,第20号,223-232.
- 中村操・松浦律子, 2011, 1855 年安政江戸地震の被 害と詳細震度分布, 歴史地震, 第 26 号, 33-64.
- 野口武彦, 1997, 安政江戸地震, 災害と政治権力, 筑摩書房
- 武者金吉, 1951, 日本地震史料, 毎日新聞社刊, pp.757.
- 大熊喜邦, 1924, 安政の大地震と大正震火災, 建築 雑誌, No.449, 67-76.
- 佐山守, 1973, 安政江戸地震災害誌, 上巻, pp.85, 東京都.
- 関谷溥·後藤美智子, 1961, 武江地動之記, 日本庶 民生活史料集成, 7, 三一書房刊, 183-205.
- 小学館, 1994, 日本大百科全書, 全 25 巻(Japan Knowledge で最新電子版閲覧可能).
- 丹野美子・高山慶子, 2008, 斎藤月岑編著『安政見 聞誌』について, 東京都江戸東京博物館研究報 告, 第14号, 125-150, 江戸東京博物館.
- 東京大学地震研究所, 1985, 新収日本地震史料, 第 5巻別巻 2, pp.1931.
- 東京大学地震研究所, 1989, 新収日本地震史料, 補 遺別巻, pp.992.
- 東京大学地震研究所, 1994, 新収日本地震史料, 続 補遺別巻, pp.1228.
- 東京大学史料編纂所, 1996, 東京大学史料編纂所 報, 史料編纂 刊行物紹介 大日本古記録 斎 藤月岑日記-, 32, 24-26.
- 宇佐美龍夫·他,2013,日本被害地震総覧 [599]-2012,東京大学出版会.

| 表 2. | 三種の『安政火災焼失図』の差異. |
|------|------------------|
|      |                  |

Table 2. Differences among three copies of "Ansei Kasai Shoushitsu Zu."

| 項目   | 絵図タイトル    | 地点        | ERI (1985)     | 江戸博版            | 地災撮要8        |
|------|-----------|-----------|----------------|-----------------|--------------|
|      | 素性        |           | 神宮文庫蔵を<br>複写製図 | 刊行向け斉藤家<br>蔵の写し | 明治21年帝大所蔵写し  |
|      | 登业占为全     | ·=+       | 42             | <u>41</u>       | <u>41</u>    |
|      | 発火点数合計    |           | 40             | <u>+1</u>       | <u>-11</u>   |
| 2🗵   | 小川町辺焼失範囲  | 表猿楽町荒川家   | 1軒焼けず          | 1軒焼             | 写し方不整合で判断不可  |
| 2121 | 小川町辺焼入範囲  | 岡部邸東三角部分  | 焼け             | 焼けず             | 焼けず          |
| 3図   | 小石川辺      | 野中邸出火点    | <u>野中邸1</u>    | <u>野中邸1</u>     | 出火点無し        |
| 16図  | 永代橋向南方    | 久右衛門新田焼失域 | 焼けず            | <u>焼け</u>       | <u>焼け</u>    |
| 21図  | 鉄砲洲辺 発火点  | 松平淡路守屋敷   | <u>屋敷内1</u>    | 出火点無し           | <u>屋敷内1</u>  |
| 22🗵  | 鍛冶橋御門外中橋辺 | 河岸地       | 出火点1           | <u>出火点無し</u>    | <u>出火点無し</u> |

下線を引いた方を推奨.\*新収全体図では番場町,永代門前町計2箇所不足,御船蔵前町1個過多,鍛冶橋 御門外の不足1箇所は虫食い誤認箇所なので追加不要.

The underlined items are recommended to use. \*Origins in S-4 and S-9 are missing, one in K-1 is excessive. The one outside the Kajibashi-gate is the misidentified of an insect hole as a fire origin.

## 付録1. 『安政地震焼失図』3 種の相違

現存する3系統の焼失図の差異を比較した結果を 後日のためにここに記す.但し神宮文庫蔵本は東京 大学(1985)作成のために翻刻者が利用した史料写 真の複写機コピーを製本したもの(以下神宮蔵本)で 確認した.神宮蔵本は,神宮文庫の「徳川史料」とい うカテゴリーの中に含まれていた様である.

江戸東京博物館所蔵本(以下**江戸博蔵本**)の詳細 は松浦・中村(2023)に譲るが,刊行を目論んで作成 された『武江地動之記』等安政江戸地震関係の斉藤 月岑収集作成資料の写し,と推定される.

『地災撮要』は、震災予防調査会成立以前の 1888 年に、帝国大学の地震学の教授と、内務省地理局の 験震課長とを兼務していた関谷清景が, 地震や噴火 災害関係で当時既に関谷の元に集まっていた史料 群を東京図書館の手島館長の委託によって 1888 年 に書写させて東京図書館に収めた書写集で,14 巻 現存している. 東京大学地震学教室関係の残存資料 の中には、この原本と思しきものは発見されていない. 東京図書館は,東京書籍館の後身,帝国図書館の 前身であり、上野にあった.後に武者金吉が増訂の 編纂のためにもっぱら調査したところでもある. 戦後 帝国図書館は国立国会図書館となった.現在は国会 図書館デジタルコレクションの古典籍資料としてウェ ブで閲覧可能である. 第8巻は『武江震災記畧』とい う史料の2巻目である(以下記畧版).『武江震災記 畧』は三部構成で,一部は所謂『武江地動之記』の調 査結果文章のやや短いもの, 二部が奉行所調査によ る焼失図の写し部分である. 江戸博蔵本の『安政見 間誌』と同様『武江地動之記』の異本である.

これら焼失図3種を比較すると,6箇所で不一致が 見られた(表 2).まず二図小川町辺で,2箇所異なる. 神宮蔵本では現錦華通り沿い表猿楽町の武家荒川 常次郎邸が1軒焼けておらず,現靖国通り交差点横 にあたる岡部因幡守邸全体が焼けている.江戸博蔵 本では荒川邸が焼け,岡部邸東端三角地は焼けずと なっている.記畧版は複写が一区画ごとに焼失は赤 線で囲ってあるが,荒川邸に関しては不鮮明であり, 焼失か否か判断できない.三角地は江戸博蔵本と同 等岡部邸の一部が焼け残っている.これらの違いで どちらが実際だったかは,今回は判断しないが,この 差異で焼失面積が大きく変わることはない.

次に異なるのは三図小石川辺の出火点である.記 客版だけ野中邸など図中に出火点が無い.これは神 宮蔵本のままで良いと判断した.同様に図ニキー鉄 砲洲辺では江戸博蔵本だけ松平淡路守屋敷内に出 火点が無い.これは神宮蔵本のままで良いと判断し た.十六図永代橋向南方で,久右衛門新田の中に焼 失域が神宮蔵本だけが欠けている.久右衛門新田内 にも焼失域があったと考える.

図二十二鍛冶橋御門外中橋辺では,新収の印刷

版にだけ河岸地に出火点がある. **江戸博蔵本**と記畧 版は出火点無しで一致していた. 神宮蔵本に戻ると, 前後の頁の該当部分に連続して黒点が続くのが判る. 新収編集時に原典の虫喰穴を出火点と誤認したもの と判断した.

一応新収の焼失域全図の誤謬もここに記しておく. 元の史料『安政焼失図』には、23 図に分かれた切り絵 図風の江戸の市域図面に合計で41箇所の出火点が 記録されており、新収では虫喰い穴を誤認して1個増 えた42 個の出火点が打たれている.新収の p.257 に は焼失図を江戸全体の図にまとめたとされる図がある. この全図は当然元の史料には無く、新収の編者が作 成した資料である.出火点は40 しか記載されていない. S-4 番場町とK-9 黒江町でそれぞれ1ずつ神宮 蔵本にある出火点が記載されていない.また、何故か 前項の虫喰誤認の出火点が全図では記載されてい ない.さらに、K-1 御船蔵前町が神宮蔵本には黒丸1 個であるが2 個記載されている.

焼失域や地点を現代の地図に落とす場合は,江戸 切絵図などと同様に,方位や距離感は史料図面では 正確さを欠くので,当時の地名と現在の町丁目などを 注意深く照合しないと図1の様に焼失域を現在の地 図上に転記するのは困難である.既に中村・ほか (2005)や本論の図1に現在の地図上での位置精度 を上げて示されているので,特に新収版全体図の正 誤図は作らなかった.

尚,森下・大窪(2014)は出火点数を42余箇所としているが,根拠史料は今回我々が利用しなかった派 生刊行物系統の史料の一部「四十二口」を「42余箇 所」の出火点と解釈し,同じ史料中の58という火元と しては最大値の情報は無視しているほか,虫喰い誤 認箇所も無視している.

#### 付録 2. 『武江地動之記』の異本について

歴史地震研究者がよく使う地震史料集では,武者 (1951) に『武江地動之記』の文章部分が含まれてい る.これは多少の誤字脱字が見受けられるが,比較す ると,江戸叢書の翻刻本から写した可能性が高い.江 戸叢書の底本や翻刻者は不明である.江戸叢書刊 行会のメンバーを見る限り,徳川家伝来の史料にあっ た写本の可能性が伺える程度である.武者が前述の 上野の帝国図書館で閲覧可能な刊行本を中心に地 震史料集を編んだことを考えれば,刊行本の江戸叢 書が底本という推測は十分蓋然性が高い.

我々は、関谷・後藤(1970)を本論では利用するこ とに決めた.彼らの底本が明確で、底本をネット経由 で画像閲覧することもできる.更に松浦・中村(2023) に付図で示した様に、底本である都立図書館蔵本の 冊子には、原著者斎藤月岑の蔵書印が押されている. 原著に近いことが確実であるので、諸説有る中で関 谷・後藤(1970)に依ったのである. そもそも『武江地動之記』は異本が多い. 例えば丹 野が発見し, 江戸東京博物館蔵となった『安政見聞 誌』というタイトルの冊子も『武江地動之記』の異本部 分が含まれる. 付録 1 に記した『地災撮要』の巻七に も『武江震災記畧一』として, 情報量が減ってはいるも のの, ほぼ同内容を含む史料がある.

庭園関係の蔵書で有名な小澤文庫は,現在殆ど が国会図書館蔵となっているが,かつてその中には 『武江震災記畧』という本が存在していた.この本が 『地災撮要』の底本の可能性がある.現在は小澤文 庫のこの史料は筑波大学蔵となっている様である.異 本検討などの際には確認すると良い.残念ながら国 会図書館蔵本の『武江地動之記』の史料確認も,今 回我々の手が回らなかった.これらは後考に任せるが, 本論で都立図書館蔵本を底本とするものに依ったこ とは,火災の検討に十分有意義であったと考える.

|      | 史料名                       | . List of Historical Materials used in this study   | ш    | 料集と頁           |
|------|---------------------------|---|------|----------------|
| Mark | Name of materials         | 而与<br>Remarks   | Vol. | Page           |
|      |                           | 奉行所与力佐久間長敬(当時19才)の地震時の行政側から見た個  |      |                |
| a    | 『安政大地震実験談』                | 本自分子方在久間及吸(当時やオアの起展時の自政國がら死た個人の記録   | ïi   | 466-476        |
| b    | 『安政乙卯地震紀聞』                | 国立公文書館蔵の宮崎成身『視聴草』の地震関連部分  | ii   | 443            |
| с    | 『安政乙卯 武江地動之記』             | 斎藤月岑著   | i    | 567-581        |
| d    | 『安政地震焼失図』                 | 北町奉行所の江戸地震火災調査報告書   | ii   | 233-257        |
| e    | 『安政度地震大風之記』               | 東大総合図書館蔵『安政地震大風之記』であろう  | ii   | 271            |
| f    | 『安政二乙卯日記 御在府年 地』          | 長門萩藩毛利大膳大夫敬親家の日記  | ii   | 1081           |
| g    | 『安政二卯年十月辰中刻大地震<br>附 所々火災』 | 豊後府内藩家老・岡本家の文書  | ii   | 477            |
| h    | 『安政二年乙卯草稿』                | 越前福井藩松平越前守慶永家の幕府への報告文書.福井藩上屋<br>敷は大名小路の中では地盤の良い所(大手町二丁目)にあり被害<br>小であったので他の大名の被害をよく見ている.中屋敷は酒井雅楽<br>頭上屋敷に隣接しており火災の推移についても詳しい | ii   | 807<br>810     |
| i    | 『江戸大地震出火明細記』              | 安政江戸地震災害誌 上巻  | iii  | 76             |
| j    | 『江戸表地震出火之次第』              | 鹿児島藩邸全体の地震火災被害文書  | v    | 1172           |
| k    | 『江戸御留守居日記』                | 因幡鳥取藩の御留守居役の日記  | ii   | 922            |
| 1    | 『江戸中諸屋敷 地震奇談録』            | 地震研究所·石本文庫  | ii   | 509            |
| m    | 『御写物』                     | 越前福井藩松平越前守慶永家の藩政史料.他藩の幕府への被害<br>報告の写し   | ii   | 795-802        |
| n    | 『小見川藩仙台陣屋日記』              | 下総小見川藩陣屋の日記   | v    | 1080           |
| 0    | 『鹿嶋藩日記』                   | 肥前鹿島藩松平(鍋島)家の藩政日記.肥前小城藩(鍋島加賀守)<br>とは共に肥前佐賀藩(松平肥前守)の支藩   | iv   | 771-772        |
| р    | 『見聞略記』                    | 筑前福岡藩松平(黒田)美濃守斉溥家の江戸屋敷から国元への地<br>震文書  | iv   | 659            |
| q    | 『酒井家史料 日記』                | 播磨姫路藩酒井雅楽守家の日記.大名小路の大火災に直面し自<br>家の地震被害・火災の発生については最も詳しく記録している  | iv   | 689            |
| r    | 『時雨廼袖』                    | 畑銀鶏著の江戸の被害の記録   | i    | 599-613        |
| s    | 『地震類焼場所明細之写』              | 石本文庫の木版史料   | iii  | 58-61          |
| t    | 『諸書抜』                     | 陸奥盛岡藩の藩政史料  | v    | 1077           |
| u    | 『書簡 江戸から国元』               | 越後村上藩の藩士の書簡   | v    | 1089           |
| v    | 『震災動揺集』                   | 石見浜田藩松平右近将監(うこんしょうげん)武聡家の地震日誌 老<br>中久世大和守のもとに提出された被害届の写し  | i    | 546            |
| w    | 『津和野亀井記 五』                | 石見津和野藩亀井隠岐守家の藩政史料   | v    | 1143           |
| х    | 『豊田家日記』                   | 下総国埴生郡成田村(現成田市幸町)の名主豊田家の日記  | ü    | 1716-1717      |
| У    | 『部 寄』                     | 長門萩藩毛利大膳大夫敬親家の藩政史料  | ii   | 1021           |
| Z    | 『別本藤岡屋日記上』                | 江戸・外神田の古本屋由蔵の編纂した安政江戸地震関連の史料集   | ii   | 332, 338       |
| α    | 『細川家旧記』                   | (財)永青文庫蔵 肥後熊本藩細川越中守家文書. 上屋敷は大名<br>小路の中では地盤の良い所(大手町二丁目)にあり 被害小であっ<br>たので 他の大名の被害をよく見ている                                      | v    | 1166-1167      |
| β    | 『奉札留』                     | 豊後府内藩 松平左衞門尉(さえもんのじょう)近説家の藩政史料.<br>他藩の幕府への被害報告の写し 奉札とは留守居書状のこと. 留守<br>居役が情報交換に使った書状の受書(野口, 1997:88p.)                       | ü    | 38<br>43<br>48 |
| γ    | 『破窓の記』                    | 城東山人著の地震日記  | i    | 500-502        |
| δ    | 『里正日誌』                    | 蔵敷村(東大和市蔵敷)の名主内藤杢左衛門の日記   | ii   | 1401-1402      |

付表 1. 火災検討に用いた史料 Table A1. List of Historical Materials used in this study

史料集は i 日本地震史料, ii 新収 5 巻別巻 2, iii 佐山 (1975), iv 新収補遺別巻, v 新収続補遺別巻と略記 In Vol. column, each archive volume of published historical materials is shown by Roman numerals as follows: i Musha (1951), ii ERI(1985), iii Sayama (1975), iv ERI (1989), and v ERI (1994).

| 付表 2. 出火点位置に関する記述   |
|---|
| Table A2. Information on each origin of fire in historical materials. |

| 現代の地名     当時の地名     No.     田火魚に関する起帯       大手町     酒井雅婆やう屋敷     C-1     御曲輪内、酒井雅婆や上屋敷(黒丸)     支       タクニフ目     松平配後守上屋敷     C-2     御曲輪内、酒井雅婆や上屋敷(黒丸)     大       山谷口の     松平配砂う上屋敷     C-3     八代洲河岸、松平和根守添屋敷(黒丸)     大       山谷口の     松平配町う上屋敷     C-4     外桜田 田部美麗寺上屋敷(黒丸)     大       内奈可二日     伊東修理太夫上屋敷     C-5     外桜田 田部美麗寺上屋敷(黒丸)     市       内奈可二丁目     伊東修理太夫上屋敷     C-6     外桜田 伊夏修理太美上屋敷     公     小田田     三原美売     (二)     前町三田     (二)     前町     (二)     前町     (二)     (二)     前町三田     (二)     (二)     前町     (二)     (二)<   |              |         |               |                | 図面       |   | 史料  |
|--|--------------|---------|---------------|----------------|----------|---|---|
| 全区外型     地平服後守上屋敷     C-2     御曲線公司上屋敷     (日、1)       イ     丸の内二丁目     松平服使力正量敷     C-3     八代洲河岸     松平尼線(黒丸)       田     松平尼線方正量敷     C-3     八代洲河岸     松平尼線「三屋敷」     (日、1)       日本谷公園     南部美濃字上屋敷     C-4     外枢田 御部美濃字上屋敷     (黒丸)       南美澤子上屋敷     C-5     外枢田 御部美濃字上屋敷     (黒丸)       南藤美濃字上屋敷     C-6     外枢田 御部美濃字上屋敷     (黒丸)       南東市二丁目     伊藤地太夫上屋敷     C-6     外枢田 伊藤地 運動、江戸御上屋敷 (二人)     (銀丸)       中田線保町     昭田 御守上屋敷     C-7     パレロ 三級法     (二人)     (二人)       中田線保町     二丁田     「二田     (中線     (二人)     (二人)     (二人)     (二人)       第第二日     「二田     「本町     (二人)  |              | 現代の地名   | 当時の           | 地名             |          | 出火点に関する記事   | エ (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) |
| 平     丸の内二丁目     松平組得字涵屋敷     (二3)     八代洲河岸     松平組得字涵屋敷     (二4)       日比谷公園     松平肥肉字上屋敷     (二4)     外桜田     南部美震守上屋敷     (二4)     小桜田     (元4)     (二4)       日比谷公園     市部美震守上屋敷     (二5)     外桜田     (四年間)     (二4)     (二2)     (二4)     (二2)<   |              | 大手町     | 酒井雅樂守上版       | 屋敷             | C-1      | 御曲輪内 酒井雅樂守上屋敷(黒丸)   | ii-235                                    |
| 代田     田比谷公園     松平肥前守上屋敷     C-4     外桜田     松平肥前守上屋敷     (黒丸)       内幸町二丁目     伊東塚田太大上屋敷     C-5     外桜田     伊東修二大上屋敷、松平時之助上屋敷境系 (黒丸)       神田神保町     堀田備中守上屋敷     C-5     外桜田     伊東修二大上屋敷、松平時之助上屋敷境系 (黒丸)       中田神保町     堀田備中守上屋敷     C-5     外桜田     伊東治北・屋二焼上ニナルト5     洗知法ル     産ご長二ナルト5     洗知法ル     産ご長二ナルト5     洗知法ル     金川大     た     小田     小田     二     1   |              | 皇居外苑    | 松平肥後守上版       | 屋敷             | C-2      | 御曲輪内 松平肥後守上屋敷(黒丸)   | ii-235                                    |
| 田     日比全公園<br>南部美濃寺上屋敷     C-5     外桜田 南部美濃寺上屋敷     C-5     外桜田 南部美濃寺上屋敷     C-7     十月四日(中略) 江戸側上屋輪ツブレ、御殿桂寝込ノ偽御取刀-<br>カケ出ル、直-魂夫ニナルト言、飛却来ル 豊田家日配       中本橋浜町<br>二丁目     第二日     伊東海塩町     C-7     十月四日(中略) 江戸御上屋輪ツブレ、御殿桂寝込ノ偽御取刀-<br>カケ出ル、直-魂夫ニナルト言、飛却来ル 豊田家日配       小野山の市屋敷、煎豆(風丸)     (二)     「新田一町屋、敷塩町(田田)     (二)   | 千            | 丸の内二丁目  | 松平相模守添剧       | 屋敷             | C-3      | 八代洲河岸 松平相模守添屋敷(黒丸)  | ii-235                                    |
| H     局部を進行上屋数     ○ 外枝田 何能央進行上屋数     ○ 外枝田 何能央進行上屋数     ○ 小田 (二、田本)       内室町二丁目     伊東密工夫上屋数     ○ 小田 (三・県太上屋数、松平時之助上屋敷現足、人屋数、水田(東丸))     ○ 小井口田(中路)江戸御上屋盤(マノム (塩和))       中田神保加     堀田偉中守上屋数     ○ 小井口田(中路)江戸御上屋盤(マノム (塩和))     ○ 小井口田(日本)     ○ 小井口田(三)     ○ 小井口     ○ 小山     ○ 小井口     ○ 小山     ○ 小井口     ○ 小山     ○ 小山    ○ 小山    ○ 小山    <   | 代            | 口比公八国   | 松平肥前守上。       | 屋敷             | C-4      | 外桜田 松平肥前守上屋敷(黒丸)  | ii-235                                    |
| 中田神保町     田田備中守上屋敷     1・1 回日     1・日回日     (中略) 江戸御上屋舗ツブレ、御殿様寝込ノ儘聊取コカケビルト言、飛却ルル量田家日記       オード     ホ野出羽守中屋敷     (い) 正言の単大ドト言、飛却ルル量田家日記     カケビルト 富、飛却ルル量田家日記       オード     水野出羽守中屋敷     (い) 正常の単大原大鳥雪大島     (県丸)       第川一丁目     雪岸鳥塩町     催兵術     (い) 正常の単な銀は住居向ニケ所法、其外家中長屋向皆潰之内潰ぎ       第川一丁目     雪岸鳥塩町     催兵術     (い) 二次回家主催素化し酸2001       第川石町     松平淡路守上屋敷     (国日市町、同銀町大丁目、大川端町、総而一口、大川端町、総而一口、大川流町、総面一口、       第二丁目     松平淡路守上屋敷     (国日市町、同銀町大丁目、大川端町、総而一口、       東橋二丁目     株子湾路之町     (日本秋三路)     (日本秋三路)       京橋二丁目     市館公部     長兵術     (Cu-4)     (二名50 同伴地に込る国丸には火元にかった       京橋二丁目     東房町     M-1     (日本三年)     (日本)     (日本三年)       京橋二丁目     東房町     M-1     (日本三年)     (日本)     (日本三年)       京橋二丁目     東房町     M-1     (日本三年)     (日本)     (日本三年)       京橋二丁目     東房町     M-1     (日本三年)     (日本)     (日本)       京橋二丁目     東房町     M-1     (日本)     (日本)     (日本)       文京区     東方町     「石市 <td< td=""><td>田</td><td>日比谷公園</td><td>南部美濃守上版</td><td>室敷</td><td>C-5</td><td>外桜田 南部美濃守上屋敷(黒丸)</td><td>ii-235</td></td<>  | 田            | 日比谷公園   | 南部美濃守上版       | 室敷             | C-5      | 外桜田 南部美濃守上屋敷(黒丸)  | ii-235                                    |
| 中山市味山     秋田市中り工業為     力 ケ出ル、直二規失ニナルト言、飛和水・豊田客日記       日本橋浜町<br>二丁目     水野出羽守中屋敷     (2u-1)     浜町中屋敷之儀は住居向二ヶ所混、其外家中長屋向皆潰之内潰潰<br>リ出火二而長屋三裡土蔵ニヶ所提先 個写物       新川一丁目     霊岸島塩町     低上街     (2u-1)     浜町中屋敷之儀は住居向二ヶ所混、其外家中長屋向皆潰之内潰潰<br>リ出火二而長屋三裡土蔵ニヶ所提先 個写物       新川一丁目     霊岸島塩町     低上街     (4定)     霊岸島塩町     (2u-1)       朝石町     一     (4定)     霊岸島塩町     (2u-2)     霊岸島塩町、同四日市町、同銀町六丁目、大川端町、総而一口、<br>火元塩町家主催夫酒也 破窓の記       病備二丁目     二     (4定)     (4定)     (4元)     (4元)     (4元)       京橋二丁目     南銀冶町     (4元)     (2u-3)     (4d)     (4d)     (4d)       京橋二丁目     南銀台     長兵衛     (2u-4)     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)       東新橋二丁目     東房町     M-1     提売町、た石-兵船屋屋敷か     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)     (4d)       文京区後来二丁目     野中鉄太郎     月行事     (4d)   | X            | 内幸町二丁目  | 伊東修理太夫.       | 上屋敷            | C-6      | 外桜田 伊東修理太夫上屋敷、松平時之助上屋敷境界(黒丸)  | ii-235                                    |
| 中山市味时     高品目面中与工品及     力力出ル、直三換失三力ルト言、飛和死助、豊田客日記       日本橋浜町<br>二丁目     水野出羽守中屋敷     (u-1)<br>浜町中屋敷之儀は住居向二ヶ所濃、真外家中長屋向皆潰之内潰潰<br>リ出火二而長屋三裡主處二ヶ所提、個写物       新川一丁目     霊岸島塩町     低大衛       朝石町     一二     (電次)路子上屋敷       朝石町     一二     (電次)路子上屋敷       前用石町     一     (電次)路子上屋敷       市     (電次)     (電水田)       東橋二丁目     一     (電水田)       市     (電次)     (電水田)       市     (電水田)     (電線)       市     (電水田)     (電線)       市     (電波)     (日本)       市     (電水田)     (日本)       市     (日本)     (日本)       東市   |              |         | 虎田進忠ウト        | 三串             | C 7      | 十月四日(中略)江戸御上屋鋪ツブレ、御殿様寝込ノ儘御取刀ニテ                                      | ii-1717                                   |
| 日本福浜町<br>二丁目     水野出羽守中屋敷     Cu-1<br>浜町中屋敷之儀は居向二ヶ所渡、其外家中長屋向皆潰之内潰潰<br>リ出と二而長屋三棟土蔵二ヶ所焼失御写物            新川一丁目<br>繁川一丁目<br>第川一丁目<br>第二日<br>第二日<br>第二日<br>京橋二丁目<br>京橋二丁目<br>京橋二丁目<br>東部町<br>「千軒町<br>(亀次郎)     Cu-1<br>案館為逗渡町置<br>上辺より燃立甲候<br>案部の置<br>た辺より燃立甲候<br>第二日<br>東部町<br>京橋二丁目<br>東部局<br>第二日<br>東部面<br>東新橋二丁目<br>東新橋二丁目<br>東那町<br>京橋二丁目<br>東部冊<br>「千軒町<br>「4 衆郎的<br>上子部<br>東新橋二丁目<br>東新橋二丁目<br>東市町<br>東新橋二丁目<br>東部市<br>東新橋二丁目<br>東非町<br>第二日<br>東部市<br>下行<br>東部市<br>「日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>第「市<br>「日<br>下日<br>「日<br>「日  |              | 伸田伸保可   | 堀田畑中寸工        | 至郑             | C-7      | カケ出ル,直二焼失二ナルト言,飛却来ル <b>豊田家日記</b>                                    | 11-1/1/                                   |
| 二丁目     小野山羽寸中座数     (品)     浜町中座数之幅は伝加回一ケガ流、長が客中逸費の言流と闪流者       第川一丁目     霊岸島塩町     儀兵衛     (2.2)     (二)   |              | 口大场近时   |               |                |          |   | ii-252                                    |
| 中央区     第川一丁目     電岸島塩町     儀兵衛     (四、一冊、陸三年期、二、一一町、陸三年期、二、一一町、陸三年期、二、一一町、陸三年期、二、一一町、陸三年期、二、一一町、陸三年期、二、一一町、三三年期、三、一一町、三三年期、三、一一町、三三年期、三、一一町、三三年期、三、一一町、三三年期、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、  |              |         | 水野出羽守中。       | 屋敷             |          | 浜町中屋敷之儀は住居向ニヶ所潰、其外家中長屋向皆潰之内潰家ヨ                                      | ii-802                                    |
| 新川一丁目     繁単島塩町     儀兵衛     Cu-2     冨岸島塩町     岡田町、     同銀町大丁目、大川端町、総而一口、<br>火元塩町家主儀兵衛也破窩の記       明石町     松平淡路守上屋敷     小軒町     (亀次郎)     (山口)     (地元道町家主儀兵衛也破窩の記       京橋二丁目     南銀冶町     長兵衛     Cu-3     鎌砲洲辺 中野町 松平淡路守上屋敷     (黒丸)       京橋二丁目     東京町     人工     東京町、公平兵部殿屋敷上一口、 急火元といたかった     皺治橋剛門外中橋辺 南大工町 町屋 此辺之 悠立 かった       第橋二丁目     東京町     月行事     M-1     雅房町、公平石田酸治電方 清水均用人野中 松平淡路 の記     (黒丸)       東新橋二丁目     柴井町     月行事     M-2     柴井町、月行事     (小石川辺 医愛周南方 清水均用人野中 公式 のこの記       東新橋二丁目     柴井町     月行事     M-2     柴井町・大田家 の記     (黒丸)       文京区後来二丁目     野中 鉄太郎     B-1     ハ石川辺 医愛周南方 清水均用人野中 北京 (黒丸)     新吉原 五ヶ町、米五十都 (南側は 残る) 共、一口也、此火元江 (加)       大市国高北の創法会     町一丁目ま (北方町)     第町二丁目家主社五部、同町同学 (黒丸)     新吉原 江 (加)     (ホーロ也、此火元江 (加)       「丁目     第古 地中     小兵衛     T-1     「日     「日     「日       「東京 中     小兵衛     T-1     「日     「日     「日     「日       「東京 中     小兵衛     T-1     「日     「日     「日 <t< td=""><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td>リ出火ニ而長屋三棟土蔵ニヶ所焼失 御写物</td><td></td></t<>     |              |         |               |                |          | リ出火ニ而長屋三棟土蔵ニヶ所焼失 御写物  |   |
| 中<br>皮     小平淡路守上屋敷<br>(亀次川 軒町)     火元塩町家主儀兵街 也破窓の記       第石町     松平淡路守上屋敷<br>(亀次川 軒町 松平淡路守敗共一日 此火元十軒町数三部店亀次郎<br>破窓の記とかるが焼失面積から町居住火元としなかった。<br>鍛冶備御門外中構辺 南大工町 町屋 止辺ら然立中候(黒丸)       京橋二丁目     藤銀沿町     長兵衛       京橋二丁目     東厨町     M-1       京栃二丁目     東房町     M-1       京新橋二丁目     東町町     月行事       京     新浩原江戸町<br>二丁目     第一       水豆豆酸漆魚丁目     第中鉄太郎     B-1       水石町     月行事     水石町       東京氏     月行事     第       東新橋二丁目     柴井町     月行事       東市     M-1     東市町、大戸部房吉、火元一口也 破窓の記       東京は定戸町一丁目を、主要     第一     M-11辺 陸慶橋南方 清水御日人野中鉄木郎 (馬丸)       大京区後楽二丁目     野中鉄太郎     B-1       小石川三丁     小石町     東市子       新吉原江戸町     二日     小石市       市口     デ     本       市口     東市     小石市       大東市     小田川三丁、安美田     小田町、安美田       市     大市     小石市     市       大市     大市     小石市     市       「二日     学     中市     小市  |              |         |               |                |          |   | ii-253                                    |
| 央     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ビーマ     ジャック     ビーマ     ジャック     ジャック     ビーマ     ジャック   | -            | 新川一丁目   | 霊岸島塩町         | 儀兵衛            | Cu-2     |   | i-501                                     |
| 区     明石町     (日本の町り上産数<br>十軒町     (名次郎)     (日本の町り上産数<br>(名次郎)     (日本の町り上産数<br>(名)       京橋二丁目     南銀冶町     (名次郎)     (日本の町り上産数<br>(名)     (日本の町り上産数<br>(日本の町り上産)     (日本の町り上産数<br>(日本の町り上産)     (日本の町り上産)     (日本の町り上産)     (日本の町り上産)     (日本の町り上産)     (日本の町り上産)     (日本の町)     (日本)     (14)  |              |         |               |                |          |   |   |
| 明石町     中軒町     (亀次郎)     (日本)     (根本)     (日本)     (日 A = )     (I A = )     (I A = )     (I A = )   |              |         | 松平淡路守上。       | 屋敷             |          |   | ii-254                                    |
| 市橋二丁目     南銀冶町     長兵衛     (四4)     (1)  | R.           | 明石町     | 十軒町           | (鱼 <b>次</b> 郎) | Cu-3     | 銭炮洲十軒町 松平淡路守殿共一口 此火元十軒町鉄三郎店亀次郎也                                     | i-501                                     |
| 京橋二丁目     南銀冶町     長兵衛<br>庄兵衛     Cu-4     第 i= 255の河岸地にある黒丸は虫喰の親認で原典や他の写し版にはない、<br>南銀冶町他止火元南銀冶町壱丁目 家主長兵衛同町庄兵衛 破窓の<br>東京都橋二丁目     兼房町     M-1     兼房町、松平兵部殿屋数共-ロ也、缺火元 破窓の配       港     東新橋二丁目     東井町     月行事     M-2     柴井町、月行事長、火元-ロ也 破窓の配       支京区後楽二丁目     野中鉄太郎     月1     M-2     柴井町木戸際より燃立、同町のみ焼失 貫江地動之配       支京区後楽二丁目     野中鉄太郎     B-1     ハ石川辺 隆優橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       オ市原江戸町     新吉原江戸町     作工目     第京面、ケ町、井五十軒(南側は残る) メ、一ロ也、此火元江)       丁二目     野中鉄太郎     B-1     ハ石川辺 隆優橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       オ市原北内陸人は江戸町、京町二ケ所より出火、五町 不録(ふう次, つーし、此火元江)     町二丁目支主払五郎、同町同幸三両人 & 20 窓の配     市田       「二丁目     新吉原江戸町     本市     市高北の側長3     地面のの分焼失 蔵のの       「二丁目     新吉原江戸町     本市     「二日     第京面、小川町町、東東長衛町、南馬辺       「二丁目     洗草寺地中     小兵衛     「二     「二日   |              |         | 1 #1 ₩]       | (电入山)          |          |   |   |
| 京橋二丁目     南銀冶町     正兵衛     市金2007周年地にある無九は虫間の部誌で原典や他の多に放けはない       市場     正兵衛     市場総合町 他 此火元南銀合町壱丁目 家主長兵衛同町正兵衛 破窓 の       市     第房町     M-1     東房町     M-1     東房町、松平兵部既屋敷大一口也、缺火元 破窓 の配       東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     パー     東井町     月行事<br>房吉     パー       文京区後楽二丁目     野中鉄太郎     月行     第     M-2     柴井町、月行事房吉、火元一口也 破窓の配       大京区後楽二丁目     野中鉄太郎     月行     第     M-1     廃町     Avan       大京区後楽二丁目     野中鉄太郎     月行     第     M-1     陸二市     市面ののみ洗ち気は地動え部     (黒丸)       大京区後楽二丁目     野中鉄太郎     月行     第     日本     小石     第  |              |         |               | 巨丘街            |          |   | ii-255                                    |
| 勝橋二丁目     兼房町     M-1     兼房町、松平兵部殿屋敷共一口也、缺火元 破窓の記       東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     M-1     業房町、松平兵部殿屋敷共一口也、缺火元 破窓の記       東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     M-2     柴井町、月行事房吉、火元一口也 破窓の記       東赤石二丁目     野中鉄太郎     B-1     ハ石川辺 隆慶橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       オ東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     F     小兵衛     F       オ東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     F     小兵衛     F     F       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     新吉原立戸町、ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>小五士間高の側残る 地震類焼場所明細之写       様川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     F     F       「     花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     T     F       「     花     「     F     F     F     F     F     F     F       「     花     「     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F  |              | 京橋二丁目   | 南鍛冶町          | <b>衣</b> 光用    | Cu-4     | * ii -255の河岸地にある黒丸は虫喰の誤認で原典や他の写し版にはない.                              | 11-235                                    |
| 勝橋二丁目     兼房町     M-1     兼房町、松平兵部殿屋敷共一口也、缺火元 破窓の記       東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     M-1     業房町、松平兵部殿屋敷共一口也、缺火元 破窓の記       東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     M-2     柴井町、月行事房吉、火元一口也 破窓の記       東赤石二丁目     野中鉄太郎     B-1     ハ石川辺 隆慶橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       オ東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     F     小兵衛     F       オ東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     F     小兵衛     F     F       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     新吉原立戸町、ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>小五士間高の側残る 地震類焼場所明細之写       様川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     F     F       「     花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     F     F     F     T     F       「     花     「     F     F     F     F     F     F     F       「     花     「     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F     F  |              |         |               | 庄兵衛            |          | 南鍜冶町他 此火元南鍛冶町壱丁目 家主長兵衛同町庄兵衛 破窓の記                                    | i-501                                     |
| 液     東新橋二丁目     柴井町     月行事<br>房吉     M-2     柴井町、月行事房吉、火元一口也破窓の記<br>柴井町木戸除より燃立、町町のみ焼生、貫江地動之記       文京区後楽二丁目     野中鉄太郎     B-1     小石川辺 隆慶橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       ボ市原江戸町<br>二丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     新吉原江戸町     七五郎<br>二丁目     新吉原城江戸町、方市より燃上る 時雨運袖抄録       ボボ原味和候上江戸町、京町一ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>六万里丁目     新吉原東ヶ町、井五十軒〈南側は残る〉 共、一口也、此火元江)     町二丁目家主松五郎、同町同幸吉両人也 破窓の記       ボボ原本の町日     新吉原東ヶ町、井五十軒〈南側は残る〉 共、一口也、此火元江)     町二丁目家主松五郎、同町同幸吉両人也 破窓の記       市丁目     新吉原東江戸町     「日本       幸吉     「小石川辺 隆慶橋南町、井五十軒〈南側は残る〉 共、一口也、 此火元江)       市「市原本の町」     「「日     「「日       春吉     「「」     「」       ***     東西     「「」       **     東京本     「」       **     「」     「」       **     東京本     「」       **     「」     「」       **     「」     「」       **     「」     「」       **     「」     「」       **     「」     「」       **     「」     「」       **     「」      「」 <tr< td=""><td></td><td>新橋二丁目</td><td>兼房町</td><td></td><td>M-1</td><td>兼房町、松平兵部殿屋敷共一口也 、缺火元 <b>破窓の記</b></td><td>i-501</td></tr<>                                  |              | 新橋二丁目   | 兼房町           |                | M-1      | 兼房町、松平兵部殿屋敷共一口也 、缺火元 <b>破窓の記</b>                                    | i-501                                     |
| 本部小画 11     米バビ     房吉     柴井町木戸際より燃立、同町のみ焼失武江地動之記       文京区後楽二丁目     野中鉄太郎     B-1     小石川辺 隆慶橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)       新吉原江戸町<br>一丁目     新吉原江戸町<br>一丁目     松五郎     新吉原五ヶ町 米五十軒(南側は残る〉共、一口也、此火元江)       丁二目支土公五郎、同町同幸吉両人也 破窓の記     第吉原は江戸町一丁目より燃上る 時雨廼袖抄録       ボ市原境へ保上江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>小五十間高札の側残る 地震頻焼場所明細之写     第市原境で町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>小五十間高札の側残る 地震頻焼場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2       「福場金座下吹所     T-3     満都町、公中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一<br>口、此火元浅草寺地中家主小兵衛也 破窓の記       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-3       「日     浅草寺地中     小兵衛     T-4       今戸二丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4       今戸町家主庄吉、火元一口也 破窓の記     第本(県丸)       今戸町家主庄吉、火元一口也 破窓の記     第本(県丸)       今戸町家主庄吉、火元一口也 破窓の記     第<br>福場辺 (安小町町)       市     龍光寺門前     保七     T-6       市     龍光寺門前     平5     「       「日     六ヶ市町     東小町     二       「たて目     市     年     T-6       「日     市     第 <  |              |         |               | 月行事            | M 2      | 柴井町、月行事房吉、火元一口也 <b>破窓の記</b>   | i-501                                     |
| 文京区後楽二丁目     野中鉄太郎     B-1     小石川辺 隆慶橋南方 清水御用人野中鉄太郎 (黒丸)            年東四丁目<br>千東四丁目<br>千東四丁目   | 쯔            | 果新橋二」日  | 柴开町           |                | IVI - 2  | 柴井町木戸際より燃立、同町のみ焼失 武江地動之記  | i-580                                     |
| 中東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     ボ吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     新吉原江戸町<br>室吉     ボー目     第吉原五ヶ町、并五十単(南側は/残る〉共、一口也、此火元江)<br>町二丁目家主松五郎、同町同幸吉両人也 破窓の記       市店は江戸町一丁目より燃上る時雨通袖抄録     市市康城小候代云)     新吉原東小丁目家市人、西町不残焼。大門<br>六五十間高札の創残る 地震頻焼場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-1     満若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬近<br>町、北馬道町、谷中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一<br>ロ、此火元浅草寺地中家主小兵間也 破窓の記       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2<br>湯若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬近<br>町、北馬道町、公中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一<br>ロ、此火元浅草寺地中家主小兵間也 破窓の記       今戸二丁目     清場金座下吹所     T-3<br>「福場町、 公缺/元、)一口也 破窓の記       今戸二丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸市家主庄吉、火元一口也 破窓の記<br>福場空<br>「、一口、山火元参町三日五石(福店店)へ(黒丸)<br>(二, 一山、山火元参)       下谷工丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       「た三丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       「ホー丁目     市住八(吉)     T-4<br>「一一<br>今戸間参加之町 三日<br>「、「ロ、しいっ、こし、       「ない日     年<br>「「「「」<br>「10<br>「一一<br>「「「」<br>「「「」<br>「「」<br>「「」<br>「」<br>「「」       「「」     「「」<br>「「」 | <del>خ</del> | 京区後楽二丁目 | 野中鉄           | <br>太郎         | B-1      |   | ii-237                                    |
| 中東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     松五郎<br>二丁目     町二丁目家主松五郎、同町同幸吉両人也 破窓の記       市店     市日     市店     市店原は江戸町一丁目より然上る時雨麺袖抄録       市市原城和侯山の創残る     地震類焼場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2       様式町三町分、浅草田町町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道<br>新吉原は江戸町一丁目より然上る     時雨麺袖抄録       市工目     浅草寺地中     小兵衛     T-2       様式中町     小兵衛     T-2     「オー       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-3       「オー     「日     「日     「日       今戸二丁目     「市     小兵衛     T-3       「オー     「日     「日     「日       今戸一丁目     「「「」     「1-3     「日       今戸町     庄八(吉)     T-4     「日       今戸町     庄八(吉)     T-4     「日       今戸町     庄八(吉)     T-4     「日       今戸町     庄八(吉)     T-4     「日       「日     「日     「日     「日     「日       「「」     「日     「日     「日     「日  |              | T T     |               |                |          |   | i-501                                     |
| 中東四丁目     新吉原江戸町<br>二丁目     T-1     吉原は江戸町一丁目より燃上る 時雨通袖抄録<br>新吉原壊れ侯上江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>外五十間高札の倒殘る 地震類残場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-1     吉原は江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門<br>外五十間高札の倒殘る 地震類残場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2     満若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道<br>町、北馬道町、谷中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一<br>口、此火元浅草寺地中家主小兵衛也 破窓の記       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-3<br>福場位、会座下吹所ゟ燃立 (黒丸2)       今戸一丁目     今戸町     庄八(古)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町浜街店庄八(黒丸)       今戸一丁目     今戸町     庄八(古)     T-4<br>今戸板玉正庄吉、火元一口也 破窓の記       下谷二丁目     今戸市     庄八(古)     T-4<br>今戸板上正上町<br>「一4<br>「一4       水が谷     市     庄八(古)     T-4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一4<br>「一5<br>「「14<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4<br>「二4  |              | 千東四丁目   |               |                | T-1      |   | 1-301                                     |
| 中     一     中     幸吉     新吉原壞礼候上江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残饶。大門<br>外五十間高礼の側残る     地震類焼場所明細之写       花川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2     猿若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道町、北馬道町、公中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一<br>ロ、此火元浅草寺地中家主小兵衛也     破窓の記       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2     猿若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道町、北馬道町、公中天王寺門前、浅草寺地中家主小兵衛也     破窓の記       今戸二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-3<br>福場町、公缺火元、シーロ也     破窓の記       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸「     今戸「     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸「     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸「     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 金座下吹所より燃立<br>(黒丸)       下谷     下谷坂本町     靜安     T-5<br>下谷坂本辺 下谷坂本辺 下谷坂本辺 下谷坂本町三丁目<br>百兵衛店座       松が谷<br>一丁目     龍光寺門前     保七     T-6<br>「<br>「<br>「<br>「       元浅草四丁目     たい町前     二<br>下<br>「<br>「<br>「<br>「<br>「        市     市<br>「  |              |         |               |                |          |   | i-599                                     |
| 中山市     中山市 </td <td></td> <td>新吉原壊れ候上江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門の</td> <td>jjj-25</td>   |              |         |               |                |          | 新吉原壊れ候上江戸町、京町二ケ所より出火、五町不残焼。大門の                                      | jjj-25                                    |
| 福川戸一<br>二丁目     浅草寺地中     小兵衛     T-2     町、北馬道町、谷中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、-<br>ロ、此火元浅草寺地中家主小兵衛也     破窓の記       今戸二丁目     橋場金座下吹所     T-3<br>橋場町、〈缺火/元、〉一口也     破窓の記       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4<br>今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸市家主座吉、火元ーロ也     破窓の記       下谷二丁目     下谷坂本町     許子       下谷二丁目     下谷坂本町     部安       下-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立 (黒丸)       「、一     丁-7       「「一     「日       松が谷<br>一丁目     市       龍光寺門前     保七       「-6     「-7       「日     市       「大参寺門前     二       「     「一       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「     「       「   |              |         |               | 半百             |          | 外五十間高札の側残る <b>地震類焼場所明細之写</b>  | 111-23                                    |
| 二丁目 浅卓寺地中 小兵衛 1-2 前、北馬道町、谷中失土寺門前、浅卓寺地中町家十八ヶ寺分、-<br>ロ、此火元浅草寺地中家主小兵衛也 破窓の記   今戸二丁目 橋場金座下吹所 「-3 「福場辺 金座下吹所ゟ燃立 (黒丸2)   今戸一丁目 今戸町 庄八(吉) 「-4 「一方橋場辺 金座下吹所より燃立 武江地動之記   今戸一丁目 今戸町 庄八(吉) 「-4 「一方橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)   今戸「日 今戸町 庄八(古) 「-4 「一方「「一」 「一4   今戸市家主庄吉、火元ーロ也 破窓の記 「一 「一 「一   下谷二丁目 下谷坂本町 靜安 「-5 「下谷坂本辺 下谷坂本町三丁目 右兵衛店時安 燃立 (黒丸)   「一丁目 下谷坂本町 一丁-5 「一 「一   水が谷<br>一丁目 市米寺門前 保七 「-6 「   「小 「二 「一 「一 「   「 「一 「一 「 「   「 「二 「 「 「   「 「二 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「   「 「 「 「 「 <td></td> <td>+ w=</td> <td rowspan="3">浅草寺地中</td> <td rowspan="3">小兵衛</td> <td></td> <td>猿若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道</td> <td></td>  |              | + w=    | 浅草寺地中         | 小兵衛            |          | 猿若町三町分、浅草田町、山川町、花川戸町、聖天横町、南馬道                                       |   |
| 合戸二丁目     橋場金座下吹所     T-3     今戸橋場辺 金座下吹所 5 燃立 (黒丸2)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 金座下吹所 5 燃立 (黒丸2)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸町家主庄吉、火元一ロ也 破窓の記     第     「「一日」     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本辺 下谷坂本町三丁目 石兵衛店静安 燃立 (黒丸)       下谷坂本町     静安     T-5     下谷坂本辺 下谷坂本町三丁目 五人組持居医師清庵也 破窓の記       「一丁目     市北寺門前     保七     T-6     「「石     「「石       「水が谷<br>一丁目     正式寺門前     保七     T-6     「「石     「「石       「水道町町目     「日     作     T-7     「「石     「「石     「「石     「「石       「「花草四丁目     「日     「日     日     日     「「石     「石     「「石     「「石     「「石       「「「「」     「「日     「日     「日     「日     「「石     「石     「「石     「石 <td< td=""><td></td><td></td><td>T-2</td><td>町、北馬道町、谷中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一</td><td>i-501</td></td<>   |              |         |               |                | T-2      | 町、北馬道町、谷中天王寺門前、浅草寺地中町家十八ヶ寺分、一                                       | i-501                                     |
| 今戸二丁目     橋場金座下吹所     T-3     橋場町、〈缺火/元、〉一口也 破窓の記<br>橋場金座下吹所より燃立 武江地動之記       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸商場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)       水が谷     一丁目     市北寺門前     保七     下6     下6       水が谷     一丁目     龍光寺門前     保七     T-6     「公福光寺門前は浅草堂前のほとり也)家主保七火元一口也 破のの記       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-7     「公龍光寺門前は浅草堂前のほとり也)家主保七火元一口也 破の記       売浅草四丁目     行安寺門前     三十郎     T-7     「公龍光寺門前は浅草堂前のほとり也)家主保七火元一口也 破の記       東二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 行安寺門前、(行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、)、一0       東二丁目     浅草小町町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺然立 (黒丸)       浅草町形町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺然立 (黒丸)       歳前二丁目     長好町     軍会     T-9     浅草駒形町三     近町市       歳前二丁目     長好町     一1     元駒形町家主亀次郎三     近町市<  |              | - 1 H   |               |                |          | ロ、此火元浅草寺地中家主小兵衛也 <b>破窓の記</b>  |   |
| 今戸二丁目     橋場金座下吹所     T-3     橋場町、〈缺火/元、〉一口也 破窓の記<br>橋場金座下吹所より燃立 武江地動之記       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺 今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)       水が谷<br>一丁目     市光寺門前     保七     T-6     下谷振本辺 下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     保七     T-6     「松が谷<br>一丁目     「一     「一       売減草四丁目     行安寺門前     屋木助     「-6     「     「     「       「「     「     「     「     「     「     「     「       「     「     「     「     「     「     「     「     「       「     「     「     「     「     「     「     「     「       「     「     「     「     「     「     「     「     「     「       「     「     「  |              |         | l             |                |          | 今戸橋場辺 金座下吹所ゟ燃立 (黒丸2)  | ii-245                                    |
| 中国     中   |              | 今戸二丁目   | 橋場金座下吹        | 听              | T-3      |   | i-501                                     |
| 今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸橋場辺     今戸町利兵衛店庄八(黒丸)       今戸一丁目     今戸町     庄八(吉)     T-4     今戸町家主庄吉、火元一口也     破窓の記       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目     右兵衛店静安     燃立(黒丸)       水が谷<br>一丁目     市米寺門前     保七     T-6     下谷坂本町     丁目     「二日、此火元参丁目五人組持居医師清庵也     破窓の記       水が谷<br>一丁目     龍光寺門前     保七     T-6     「福光寺門前町町屋 (黒丸)     「     「       元浅草四丁目     行安寺門前     二     「-6     「三     「三     「三     「二       売買     「     「     「     「     「     「     「     「       「   |              |         |               |                |          |   | i-580                                     |
| 今戸一丁目     今戸町     住八(吉)     1-4     今戸町家主庄吉、火元一口也 破窓の記       下谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立 (黒丸)       水が谷     一丁目     龍光寺門前     保七     T-6     「谷坂本町 町」     第屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     屋十郎     T-6     「-6     「福光寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-7     「福光寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-7     「福光寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       東二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-7     「東屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       第二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-7     「東屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       第二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       第二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       第     第次郎     1-9     浅草与駒形町辺 孫右衛門地信 亀次郎 (黒丸)     浅草与駒形町辺 孫右衛門地信 亀次郎 (黒丸)       「「前前二丁目     三好町     一     1-9     浅草与駒形町 家主亀次郎三好町同踊兵衛両人也 破窓の記       「日     一     一     一     一     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、町長者町壱丁目、同式 丁       「日     一     一<  |              |         | <u>م – ۳-</u> |                | T 4      |   | ii-245                                    |
| 中谷二丁目     下谷坂本町     靜安     T-5     下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立 (黒丸)       松が谷     一丁目     龍光寺門前     保七     T-6     菊屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)       小、一口、此火元参丁目五人組持居医師清庵也 破窓の記     菊屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)     第屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-6     菊屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-7     浅草行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       東二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-7     浅草行安寺門前、〈行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、〉、一口<br>此火元行安寺門前家主喜十郎也 破窓の記       募二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       第     第     「17     浅草菊形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)       第     第     「18     「18       第     日     1     「19     「2       第     第     「10     「2     「2       第     第     「10     一     「2       前     二     「10     一     「3       前     二     「10     二     「3       「10     二     二     「3     二       前     二     「4   |              | 今戸一丁目   | 今戸町           | 庄八(吉)          | 1-4      |   | i-501                                     |
| 台<br>東<br>区 松が谷<br>一丁目 龍光寺門前 保七 「-6 「東屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)   元浅草四丁目 市安寺門前 居十郎 T-6 「4屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)   元浅草四丁目 行安寺門前 喜十郎 T-7 「4屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)   元浅草四丁目 行安寺門前 喜十郎 T-7 「5草行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)   方浅草四丁目 行安寺門前 三十郎 第屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)   市大百丁目 該草八軒町 玉宗寺 T-7 「2草行安寺門前、〈行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、〉、一口<br>此火元行安寺門前家主喜十郎也 破窓の記   夢形一丁目 駒形町 亀次郎 丁-8 菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)   「月 第一町 電次郎 T-9 「2草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)   「注草駒形町工目 三好町 彌兵衛 T-10 「5駒形町家主亀次郎三好町   3単5町   5八軒町総而一口」   「日 上野町一丁 興兵衛 丁40 下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁   「日、他 興兵衛 「6南六門町, 北大門町、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元」  |              |         |               | 1              | <b>.</b> | 下谷坂本辺 下谷坂本町三丁目 右兵衛店静安 燃立(黒丸)  | ii-240                                    |
| 台東区 松が谷<br>-丁目 龍光寺門前 保七 T-6 菊屋橋辺 龍光寺門前 町屋 (黒丸)   二月 龍光寺門前 丁-6 第屋橋辺 龍光寺門前は浅草堂前のほとり也〉家主保七火元一口也 破<br>の記   元浅草四丁目 行安寺門前 喜十郎 T-7 第屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)   元浅草四丁目 行安寺門前 喜十郎 T-7 第屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)   第二丁目 浅草八軒町 玉宗寺 T-7 第屋橋辺 (子安寺門前) 秋田 破窓の記   第二丁目 浅草八軒町 玉宗寺 T-8 菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)   第 第三 丁-9 浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)   前前二丁目 三好町 角兵衛 T-10   歳前二丁目 三好町 彌兵衛 T-10 元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記   上野町一丁目・他 與兵衛 下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁目、   日、向所常楽院門前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元日  |              | 下谷二丁目   | 下谷坂本町         | 靜安             | 1-5      | 1、一口、此火元参丁目五人組持居医師清庵也 <b>破窓の記</b>                                   | i-501                                     |
| 合<br>・<br>・<br>・   |              | 10.1843 |               |                |          |   | ii-242                                    |
| 広浅草四丁目     行安寺門前     唐十郎     の記       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     「T-7     浅草行安寺門前     町屋 燃立 (黒丸)       方浅草四丁目     行安寺門前     宮井郎     「T-7     浅草行安寺門前、     〈行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、〉、一口       東二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       小形一丁目     駒形町     亀次郎     T-9     浅草駒形町辺 孫右衛門地借<  |              |         | 龍光寺門前         | 保七             | T-6      |   | : 501                                     |
| 区     売浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     新屋橋辺 行安寺門前 町屋 燃立 (黒丸)       元浅草四丁目     行安寺門前     喜十郎     T-7     浅草行安寺門前、〈行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、〉、一口       第二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       第一丁目     駒形町     亀次郎     T-7     浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)       「     1     七9     浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)       「     七9     一     1       「     1     年     第屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       「     1     第     1       「     1     1     1       「     日、     市     1       「     日、     1     1       「     日、     1     1       「     日、     1     1       「     1     1     1       「     日、     1     1       「     日、     1     1       「     日、     1     1       「     日、     1     1       □     日、     1     <   |              |         |               |                |          |   | i-501                                     |
| 元浅草四丁目 行安寺門前 喜十郎 T-7 浅草行安寺門前、〈行安寺門前は、浅草菊屋橋西際也、〉、一口<br>此火元行安寺門前家主喜十郎也 破窓の記   寿二丁目 浅草八軒町 玉宗寺 T-8 菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)   駒形一丁目 駒形町 亀次郎 T-9 浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)   蔵前二丁目 三好町 彌兵衛 T-10 元駒形町家主亀次郎三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口山   蔵前二丁目 三好町 彌兵衛 T-10 元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記   上野町一丁<br>目・他 與兵衛 下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁  | <u>ک</u> ا   |         |               |                |          |   | ii-242                                    |
| 小火元行安寺門前家主喜十郎也 破窓の記       寿二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       駒形一丁目     駒形町     亀次郎     T-9     浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎 (黒丸)       蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     浅草駒形町黒船町諏訪町三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口山       蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記       上野町一丁     與兵衛     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁目、向所常楽院門前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元」  |              | 元浅草四丁目  | 行安寺門前         | 喜十郎            | T-7      |   | i-501                                     |
| 寿二丁目     浅草八軒町     玉宗寺     T-8     菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)       駒形一丁目     駒形町     亀次郎     T-9     浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎(黒丸)       蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     浅草駒形町黒船町諏訪町三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口山       蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記       上野町一丁     與兵衛     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁目、他     山、同所常楽院門前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元」   |              |         |               |                |          |   | 1-301                                     |
| 駒形一丁目     駒形町     亀次郎     T-9     浅草駒形町辺 孫右衛門地借 亀次郎(黒丸)<br>浅草駒形町黒船町諏訪町三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口山<br>浅草駒形町黒船町諏訪町三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口山       蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記       上野町一丁<br>目・他     與兵衛     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁   |              | 寿二丁目    | 浅草八軒町         | 玉宗寺            |          | 菊屋橋辺 修福寺末玉宗寺燃立 (黒丸)   | ii-242                                    |
| 歳前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     元駒形町家主亀次郎三好町局彌兵衛両人也     破窓の記       上野町一丁     山・他     與兵衛     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁目、  |              |         | ᄩᅿᅚᄼᄪᆕ        |                |          |   | ii-243                                    |
| 蔵前二丁目     三好町     彌兵衛     T-10     元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也     破窓の記       上野町一丁     上野町一丁     単兵衛     下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁       日・他     與兵衛     「     同所常楽院門前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元」  |              | 駒形一」目   | 馬可 ガジ 中 」     | 杉町 電次則         | 1-9      | 浅草駒形町黒船町諏訪町三好町浅草三軒町同所八軒町総而一口此火                                      | i-501                                     |
| 上野町一丁<br>日・他<br>具兵衛<br>上野町一丁<br>日・他<br>上野町一丁<br>月・他<br>月、谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁  |              | 蔵前二丁目   | 三好町           | 彌兵衛            |          | 元駒形町家主亀次郎三好町同彌兵衛両人也 破窓の記  | 1-301                                     |
| 「「「」」」 - 「」 - 「」 - 「」 - 「」 - 「」 - 「」 -   |              |         |               |                |          | 下谷南大門町、北大門町、同所同朋町、同長者町壱丁目、同弐丁                                       |   |
|  |              |         |               | 「日本」           |          | 目、同所常楽院門前、下谷町壱丁目、上野町、総而一口、火元上野                                      | i-580                                     |
|  |              | 上野三丁目   |               |                | T-11     |   |   |
| 森川久右衞門 上野町壹丁目裏森川久右衞門殿組御徒やしきより出火 仲御徒  |              |         | 森川久右衛門        |                |          | 上野町壹丁目裏森川久右衞門殿組御徒やしきより出火 仲御徒町な                                      |   |
| 美濃部八蔵 る東側御先手美濃部八蔵殿(中略)火起こり 武江地動之記  |              |         |               |                |          |   | i-570                                     |
|  |              |         |               |                |          |   | ii-239                                    |
| 清兵衛二、下公芝町声丁日計丁日池之端七軒町謙安寺門前級仰院門前甘州目   |              |         |               | 清兵衛            |          |   |   |
|  |              | 池之端一丁目  | 一丁目 下谷茅町      |                | T-12     | や各家町を」自己」自地と端で軒町講女寺  前横仰焼  前兵が  前<br> 地五六ヶ所総而一口此火元茅町壱丁目家主清兵衛同二丁目同金七 | i-501                                     |
|  |              |         |               | 金七             |          |   |   |
|  |              |         |               | 金七             |          |   |   |

| 付表 2. 続き             |
|----------------------|
| Table A2 (continued) |

|   |                       |  |                       | 図面    |   | 史料      |
|---|-----------------------|--|-----------------------|-------|---|---------|
|   | 現代の地名                 | 当時の                                      | 地名                    | No.   | 出火点に関する記事   | 集頁      |
| 台   |                       |  |                       |       | 池之端七軒町 清左衛門店 松蔵(黒丸)   | ii-239  |
| 東   | 池之端二丁目                | 池之端七軒町                                   | 松蔵                    | T-13  | 池の端七軒町同清左衛門 破窓の記  | i-501   |
| 区   |                       |  |                       |       | 池の端七軒町より燃立。 <b>武江地動之記</b>   | i-580   |
| 荒川  | 区南千住                  | 小塚原町三輪                                   | <b>叶永</b> 44          | A-1   | 小塚原町、三ノ輪町飛地、此辺より燃立申候、(黒丸)   | ii-241  |
| 七丁  | 目                     | 小塚原町三輪                                   | 可飛地                   | 71-1  | 千住 小塚原町、一口也、缺火元 破窓の記  | i-501   |
|   |                       | 南本所元瓦町                                   |                       |       | 小梅瓦町辺 南本所元瓦町 町屋 (黒丸)  | ii-247  |
|   | 向島一丁目                 |  | 新蔵                    | S-1   | 南本所元瓦町、同所小梅瓦町、一口、火元は元瓦町家主新蔵也破                                     | i-501   |
|   |                       | 中之郷竹町                                    |                       |       | <u>窓の記</u><br>本所中之郷竹町、同続松平周防守殿下屋敷共、一口也。缺火元 破                      |         |
|   | 吾妻橋一丁目                |  | 防守下屋敷                 | 0-2   | 窓の記   | i-501   |
|   |                       | 北本所荒井町                                   | 加小工产家                 |       | 南北本所番場町荒井町辺 荒井町 町屋(黒丸)  | ii-246  |
|   | 東駒形二丁目                |  | 忠太郎                   |       | 南本所番場町、北本所番場町、同所荒井町、総而一口、此火元南本                                    |         |
|   |                       | 北本所番場町                                   |                       |       | 所番場町家主新八、荒井町同忠太郎也破窓の記   | i-501   |
|   | 東駒形一丁目                | 10/11/1 田 2015]                          | 新八                    | S-4   | 南北本所番場町荒井町辺 北本所番場町 町屋(黒丸)   | ii-246  |
| 墨   |                       | 南本所石原町                                   | 4/1/ \                |       |   | ii-248  |
| 田   | 石原町二丁目                |  | 久右衛門                  | S-5   | 南本所石原町、火元家主久右衛門、一口也破察の記   | i-501   |
| 区   | 太平一丁目                 | 中之郷出村町                                   |                       | S-6   |   | i-501   |
|   |                       |  | E E                   |       |   | ii-248  |
|   | 緑一丁目                  | 1. |                       | J ⊃-/ |   |         |
|   |                       | 本所緑町三・                                   |                       |       | 本所花町、同所緑町一、二、三、四、五町迄、総而一口、此火元花                                    |         |
|   | 緑三丁目                  |  |                       |       | 町家主徳兵衛、緑町一丁目同市五郎、同二丁目與兵衛、同 五丁目                                    | i-501   |
|   |                       |  |                       | 20    | 安兵衛、右四人也 破窓の記   |         |
|   |                       |  |                       | S-9   | 本所竪川辺 本所入江町 町屋 (黒丸)   | ii-248  |
|   |                       |  |                       | C 10  | 本所徳右衛門町壱丁目、二丁目、一口、此火元二丁目家主與兵衛也                                    | i-501   |
|   | 立川四丁目                 |  | 與兵衛                   | 3-10  | 破窓の記  | 1-301   |
|   | 新大橋二丁目                |  | 勘次郎                   |       | 新大橋向 御船蔵森下町辺 御船蔵前町 町屋 (黒丸)  | ii-251  |
|   |                       | 御船蔵前町                                    | 久丘衛                   | K-1   | 同所六間堀町、同所御船蔵前町、同所森下町、一口、此火元、(中                                    | i-501   |
|   |                       |  | く大田                   | 、大国   | 略)御船蔵前町同勘次郎、同町同久兵隊衛 <b>破窓の記</b>                                   |         |
|   | 新大陸二十日                | 涩川六間堀町                                   |                       |       | 新大橋向六間堀町 六間堀町 町屋 (黒丸)   | ii-251  |
|   | 初八间一丁口                |  |                       |       | 此火元、六間堀町家主新蔵、同所同勝五郎 <b>破窓の記</b>                                   | i-501   |
|   | <b>森下一</b> 丁日         | <b>森下町</b>                               |                       |       |   | ii-251  |
| 田原     石原町二丁目     中本/h12/kml     5.5     用本/h12/kml     四人元素之名衛門、一口也     破窓の記       太平一丁目     中之郷出村町     5-6     同所出村町、小元素主久右衛門、一口也     破窓の記       緑一丁目     本所緑町二・目     市五郎     5-7     本所経町一丁目 町屋 (黒丸)       緑二丁目     本所緑町三・     與兵衛     5-8     本所花町、同所緑町一、二、三、四、五町迄、総而一口       線四丁目     本所花町     徳兵衛     5-8     本所花町、同所緑町一、二、三、四、五町迄、総而一口       立川四丁目     本所花町     徳兵衛     5-8     本所花町、同所緑町一、二、三、四、五町迄、総而一口       立川四丁目     本所花町     徳兵衛     5-8     安兵衛     右四人也     破窓の記       新大橋二丁目     本所徳右衛門町     與兵衛     5-9     本所徳右衛門町を丁目、二丁目、一口、此火元二丁目家     破窓の記       新大橋二丁目     御船蔵前町     久兵衛     K-1     同所六間堀町、同所御船蔵前町、同所森下町、一口、山       新大橋三丁目     深川六間堀町     新麦     新大橋向 御船蔵前町「同勘次郎、同所久民隊 破窓の記     新大橋向 御船蔵前町町回人の、「口、       新大橋三丁目     深川六間堀町     「「「「「」」     小大     「「「」」」     加     加       「「」     森下町     「「」     「」     「」     「」     「」     「」       「「」     「」     「」     「」 |                       | i-501                                    |                       |       |   |         |
|   | 常盤二丁目                 |  |                       | K-4   | 深川常磐町壱丁目、二丁目、一口也、缺火元 破窓の記   | i-501   |
|   | 清澄二-三丁日               |  |                       | K-5   | 深川伊勢崎町辺 町屋(黒丸)<br>  | ii-250  |
|   |                       |  |                       |       |   | i-502   |
|   | 冬木                    | 組合金兵衛                                    |                       | K-6   |   | ii-250  |
|   | -                     |  |                       |       |   | i-502   |
|   | 富岡二丁日                 | 水代守門刖鬼                                   |                       | K-7   |   | ii-249  |
|   |                       |  | 金次郎                   |       |   | i-502   |
|   | 門前仲町                  | 水1、すじ1111                                |                       | K-8   |   | 1 502   |
|   |                       |  |                       |       |   | ii-249  |
|   | -, 1                  | 同門前山本町                                   |                       |       |   | ii-249  |
|   | 富岡一丁目                 |  |                       |       |   | i-502   |
|   |                       |  |                       |       |   | ii-249  |
|   |                       | 深川熊井町<br>深川黒江町                           | 羊丘街                   |       | 永代寺門前町辺 大嶌町 黒江町 町屋(黒丸二つ)  | 11-2-49 |
|   | 永代一-二丁目               | 深川監江回                                    | <u>善 善</u> 兵衛<br>伊右衛門 | K-9   | 同所相川町、熊井町、諸町、富吉町、中島町、大島町、黒江町、蛤<br> 町、総て一口、此火元、熊井町家主利八、大島町同幸次郎、黒江町 | i-502   |
|   |                       |  |                       |       | 同善兵衛、蛤町同伊右衛門,右四人也破窓の記   | 1.002   |
|   | 亀戸二丁目                 | 深川大島町 幸次郎<br>亀戸町                         |                       |       | 尚吉会開、品町尚存石開门,石首八世 被急の記<br>亀戸町、一口也。缺火元 破窓の記                        | i-501   |
|   | <u>电户一」日</u><br>亀戸六丁目 | 中之郷五之橋                                   | Ŧ                     |       | 电戸町、一口也。 峡久光 破怠の記<br>中之郷五の橋町、一口也、缺火元 破窓の記                         | i-501   |
|   |                       |  | -1                    |       |   | 1.001   |

記事の太字は史料名. 無いものはすべて(d). 史料集略記は付表1参照

Gothic indicates each historical document. In the last column, each archive volume of published historical materials and its page number are shown. i Musha (1951), ii ERI (1985), iii Sayama (1975).